

(別表1)

理学療法学科 教育課程

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解									
人文科学									
心理学	15						15	1	
日本語表現法	15						15	1	
倫理学	15						15	1	
医学英語		30					30	2	
社会科学									
社会学	15						15	1	
教育学	15						15	1	
人間関係論	15						15	1	
自然科学									
物理学	15						15	1	
生物学	30						30	2	
情報処理学	15						15	1	
基礎統計学		15					15	1	
保健体育									
レクリエーション実技Ⅰ	30						30	1	
基礎分野計	180	45					225	14	

2 専門基礎分野

人体の構造と機能及び心身の発達									
解剖学									
解剖学Ⅰ - 1	45						45	2	
解剖学Ⅰ - 2		45					45	2	
解剖学Ⅱ	60						60	2	
解剖学Ⅲ		60					60	2	
体表解剖学Ⅰ	15						15	1	
体表解剖学Ⅱ		15					15	1	
生理学									
生理学Ⅰ	60						60	2	
生理学Ⅱ		60					60	2	
運動学									
基礎運動学Ⅰ	45						45	2	
基礎運動学Ⅱ		45					45	2	
人間発達学									
人間発達学		15					15	1	
小計	225	240					465	19	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進									
病理学概論		30					30	2	
臨床心理学		30					30	1	
臨床医学		30					30	1	
内科学			30				30	1	
老年学				30			30	1	
整形外科Ⅰ			30				30	1	
整形外科Ⅱ				30			30	1	
神経科学Ⅰ			30				30	1	
神経科学Ⅱ				30			30	1	
精神医学			30				30	1	
小児科学		15					15	1	
臨床薬理学			15				15	1	
栄養学	15						15	1	
小計	15	105	135	90			345	14	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念									
リハビリテーション概論Ⅰ	30						30	2	
リハビリテーション概論Ⅱ		15					15	1	
公衆衛生学	15						15	1	
小計	45	15					60	4	
専門基礎分野合計	285	360	135	90			870	37	

3 専門分野

科目	1年次		2年次		3年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎理学療法学									
理学療法学概論	15						15	1	
運動療法学概論		15					15	1	
病態運動学				30			30	1	
臨床運動学				30			30	1	
動作分析学			45				45	2	
小計	15	15	45	60			135	6	
理学療法管理学									
理学療法管理学Ⅰ	15						15	1	
理学療法管理学Ⅱ		15					15	1	
小計	15	15					30	2	
理学療法評価学									
理学療法評価学総論	15						15	1	
理学療法評価学Ⅰ		30					30	1	
理学療法評価学Ⅱ		45					45	2	
理学療法評価学Ⅲ			60				60	2	
理学療法評価学Ⅳ			30				30	1	
理学療法評価学Ⅴ			30				30	1	
小計	15	75	120				210	8	
理学療法治療学									
物理療法学総論		15					15	1	
物理療法学各論				30			30	1	
義肢学				30			30	1	
装具学			30				30	1	
日常生活活動学Ⅰ			30				30	1	
日常生活活動学Ⅱ				30			30	1	
運動療法学			60				60	2	
理学療法治療学Ⅰ				60			60	2	
理学療法治療学Ⅱ			30				30	1	
理学療法治療学Ⅲ				30			30	1	
理学療法治療学Ⅳ				60			60	2	
理学療法治療学Ⅴ				30			30	1	
理学療法治療学Ⅵ				30			30	1	
理学療法総合演習Ⅰ			60				60	2	
理学療法総合演習Ⅱ				60			60	2	
理学療法総合演習Ⅲ					30		30	1	
理学療法総合演習Ⅳ(通年)					150	150	300	10	
小計		15	210	360	180	150	915	31	
地域理学療法学									
地域理学療法学			15				15	1	
地域リハビリテーション学			15				15	1	
生活環境学Ⅰ		15					15	1	
生活環境学Ⅱ			15				15	1	
小計		15	45				60	4	
臨床実習									
臨床見学実習Ⅰ		40					40	1	
臨床見学実習Ⅱ			40				40	1	
臨床評価実習				120			120	3	
臨床総合実習Ⅰ					320		320	8	
臨床総合実習Ⅱ						320	320	8	
小計	0	40	40	120	320	320	840	21	
専門分野計	45	175	460	540	500	470	2190	72	
総合計	510	580	595	630	500	470	3285	123	
年次合計	1090		1225		970		3285	123	

4 選択科目

障害者スポーツ論		15					15	1	
レクリエーション概論		15					15	1	
レクリエーション実技Ⅱ			30				30	1	
小計		30	30	0	0	0	60	3	

1単位の授業時間は、講義・演習にあつては15～30時間、実験・実習・実技にあつては30～45時間とする。
臨床実習にあつては1単位を40～45時間とし、合計21単位840～945時間で構成される。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
心理学	福山 未智	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

心理学の主要な分野の研究成果について、基礎知識を学ぶ。また、心理学が社会（日常生活や対人援助）の中でどのように活用されているかについて理解を深めることを目指す。
--

◇到達目標

心理学の各分野について基礎的な知識を説明できるようになる。 心理学が社会の中でどのように扱われているかについて理解を深める。 日常生活や対人援助の実践に心理学の知識を応用できるようになる。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	ガイダンス：心理学とは？	講義	
第 2 回	心理テストの効果と対応	講義・演習	
第 3 回	社会心理学とその理論家	講義	
第 4 回	服飾心理学の意義と実際	講義	
第 5 回	文化心理学の概要	講義	
第 6 回	文化心理学と TEA (複線径路等至性アプローチ)	講義	
第 7 回	TEA 演習と本講義のまとめ	講義・演習	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (30 %)
------	---

教科書	特になし。適宜資料を配布します。
参考図書	心理学の名著 30：サトウタツヤ(著)2015 年 ちくま新書 文化心理学 理論・各論・方法論：木戸彩恵、サトウタツヤ(編著)2019 年 ちとせプレス
留意事項	毎回の授業の予習・復習を行うこと。(60 分) 予習・復習課題については、第 1 回講義にて説明する。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
日本語表現法	南園 節教	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

ひろく知られている古典、親しみやすい物語、私たちの生活に結びついている著作を解説します。そして、書く作業を課し、添削し、返却します。
--

◇到達目標

学生は、解説された著作のエッセンスに触れ、読むことへの関心と向き合います。そして、提示された「テーマ」で、400 字を「作文し」、提出、添削された「自分の文章」と、再対面します。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	絵本の思い出 「はじめまして」	講義	
第 2 回	『ハムレット』 「私のふるさと」	講義	
第 3 回	『リトルトリ』 「父から学ぶ」または「母から学ぶ」	講義	
第 4 回	『シェ・パニースへようこそ』 「今夜料理します」	講義	
第 5 回	『花さき山』 「伝えるもの」「伝わるもの」	講義	
第 6 回	『日本国憲法、前文』 「今、書きとめておきたいこと」	講義	
第 7 回	『いつまでも、いつまでも お元気で』 「私たちの未来を書こう」	講義	
第 8 回	メッセージ、いろいろ 「作文を書いた感想、南園への手紙」	講義	

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (作文 80% 授業態度 20%)
------	--

教科書	必要な資料を講義時、配布します。
参考図書	ウィリアム・シェークスピア / フォレスト・カーター / アリス・ウォータース / 斎藤隆介 / 滝平二郎 / 知覧特攻平和会館編 / その他
留意事項	添削された部分を参考にして、清書する。(復習 10 分)

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
倫理学	吉本 陵	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

医療援助職に必要なケアの技法を倫理学の視点から考察する。

◇到達目標

- ・倫理学の視点を学び、倫理学の視点からの考察に習熟すること。
- ・ケアを仕事とすることに内在する倫理的な困難を整理し、自分の言葉で説明できるようになること。
- ・ケアに関する文章を正確に読み、理解できるようになること。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	ガイダンス・イントロダクション	講義	
第 2 回	ケアとは何か——医療におけるケアの役割	講義	
第 3 回	ケアのまなざし——映像作品から考える	講義	
第 4 回	患者の痛みに対するケア 1 患者の痛みを理解すること	講義	
第 5 回	患者の痛みに対するケア 2 身体の痛みと心の痛み	講義	
第 6 回	傾聴としてのケア 傾聴とは何か	講義	
第 7 回	患者と患者の家族に対するケア	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	■試験 (80%) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) ■その他 (提出物 20%)

教科書	プリントを配布する。
参考図書	適宜指示する。
留意事項	教科書として配布するプリントを事前に読み、要点を把握しておくこと。授業後はレジュメ等を参考にして授業内容を振り返り、定着させておくこと。授業中の私語は厳禁とする。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医学英語	福本 洋	1	2	後期	必修 選択

◇講義概要

英語および簡単な英会話を通して専門分野の基礎を学ぶ。

◇到達目標

介護と医療に関わる内容と有用な用語を習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション 1. The Four Keys to Successful Caregiving	講義	
第 2 回	2. Using Mobility and Lifting Aids	講義	
第 3 回	3. Helping People with Meals	講義	
第 4 回	4. Helping People Use the Toilet	講義	
第 5 回	5. Helping People with their Bath	講義	
第 6 回	6. Helping People with Dressing and Grooming	講義	
第 7 回	7. Helping People Change Their Position	講義	
第 8 回	8. Helping with Recreational Activities	講義	
第 9 回	9. Helping People to Communicate	講義	
第 10 回	10. Helping People Suffering from Disease and Illness	講義	
第 11 回	11. Helping Children to Develop	講義	
第 12 回	12. Helping with Domestic Duties in a Client's Home	講義	
第 13 回	13. Review 対話練習、リハーサル	講義	
第 14 回	対話発表	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☒ その他 (授業中の活動及び発表 20%)
------	---

教科書	A Helping Hand 福祉・介護系学生のための総合英語—Comprehensive English for Caregivers (南雲堂)
参考図書	
留意事項	講義内容の予習、復習をすること。 講義後小テストを行います。小テストは返却しますので、間違ったところは、やり直して理解を深めること。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会学	南園 節教	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

社会学の基礎的な用語のひとつ、人間と人間の関係について、対面で、講義をします。
私たちが経験している「出来ごと」についても考察します。

◇到達目標

学生は、「私たちの日々の暮らしの中の人間と人間の関係」を考え、学問のひとつの領域としての「日常」を認識します。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	社会学で学ぶこと 人間関係を通して、社会を理解する	講義	
第 2 回	社会学で学ぶこと 社会学が誕生したころのフランス	講義	
第 3 回	研究方法としての調査	講義	
第 4 回	日本に影響を与えたアメリカの社会学者	講義	
第 5 回	仕事をするために、資格を取得するために	講義	
第 6 回	文字で伝えること、伝わること	講義	
第 7 回	私たちが安全な日々を送るために	講義	
第 8 回	試験		

評価方法	☒ 試験（筆記試験 80%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（授業態度 20%）
------	---

教科書	「日常の社会学」（南園節教 著 2025 年版）
参考図書	文楽、歌舞伎、オペラ、クラシック、 演劇、映画、テレビ、読書 等の資料を提供する
留意事項	テキストを読んでおく（予習 10 分）又は、テキストのその日の量を読む（復習 10 分）

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
教育学	田邊 匠	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

教育の目的、本質、方法、及び制度、行政等の基礎を学ぶ

◇到達目標

本講義は、日本の教育について、教育制度をはじめとした基礎的な知識を身につけるとともに、さまざまな事例を通し、今日の日本の教育が直面する問題・課題を多面的に捉える視点を養うことを目標とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	導入：教育学とは何か	講義	
第 2 回	教育問題とは何か	講義	
第 3 回	学校教育制度の範囲	講義	
第 4 回	教育と福祉	講義	
第 5 回	教職をどのように捉えるか	講義	
第 6 回	教員の働き方を考える	講義	
第 7 回	学校とその組織のあり方を考える	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 70%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（提出物 30%）
------	--

教科書	資料を配布する。
参考図書	その都度、授業中に提示する。
留意事項	本講義の構成は上記の通りである。しかし、受講生の興味関心に沿って、その内容を多少変更する可能性がある。

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間関係論	後藤 千明	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

近年、医療や福祉の場においては日常生活以上に慎重で良好な人間関係を築くことが重要である。そのベースとなる人間関係論を学び、コミュニケーション能力や人間関係を築く能力、またこれらの基本的な知識の理解と、ディスカッションワークを交えて自他ともに尊重する会話能力を身につける。

◇到達目標

1. 自己分析を行い、自分の個性を知り、人間関係づくりに反映させる
2. 基礎的コミュニケーション論を概説出来る
3. 自己主張と傾聴の取れたディスカッションが出来るようになる
4. 医療場面における被援助者の心理を理解する

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	第一印象		
第2回	自己分析① 東大式エゴグラム		
第3回	自己分析② YG 性格検査		
第4回	対人コミュニケーション		
第5回	グループワーク -トラブルの解決-		
第6回	グループワーク -価値観の違いを共有する-		
第7回	医療・援助における人間関係		
第8回	試験		

評価方法	☒ 試験 (70%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (提出物 30%)
------	--

教科書	なし
参考図書	はじめてふれる人間関係の心理学／榎本博明 人間関係づくりトレーニング／星野欣生
留意事項	学習内容は身近な例に当てはめながら理解する。またグループワークは積極的に参加すること。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
物理学	萬喜 佐知江	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

理学療法士に必要な身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎知識を学ぶ。
運動学と運動力学、並進運動と回転運動、力の合成・分解、力のモーメント、身体のコなど学ぶ。
過去に国家試験に出た基礎的な問題にも取り組む。

◇到達目標

1. 運動学と運動力学の違い、並進運動と回転運動の違いを説明できる
2. 関節運動の定義を理解し、関節運動を言葉で説明し、自分の体を使って再現できる。
3. 変位・速度・加速度の概念を理解し、計算できる。
4. ベクトルの意味が分かり、ベクトルを利用して合成と分解ができる。
5. ベクトルと三角関数を利用して国試問題が解ける。
6. モーメントとコノ原理を理解し、身体の関節にあてはめて、考える事ができる。
7. 運動量・仕事・仕事率を説明し、計算できる。
8. 力学的エネルギーについて説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	生体力学の基礎：力学とは（運動学と運動力学）物体の運動（並進運動と回転運動）関節運動の表記について（屈曲・伸展、外転・内転等）	講義 実技	
第 2 回	運動学：並進運動における位置・速度・加速度の計算、回転運動における角度と角変位（角速度）・角加速度の計算、国試問題	講義	
第 3 回	運動力学：日常の中の力学的枠組み、万有引力の法則、ニュートンの運動の法則（第 1 法則・第 2 法則・第 3 法則）	講義	
第 4 回	運動力学：力の合成と分解、ベクトル量とスカラー量	講義	
第 5 回	運動力学：力の分解と三角関数を利用して国試問題を解く！	講義	
第 6 回	運動力学：モーメントとコノ原理、国試問題	講義	
第 7 回	運動力学：運動量、仕事、仕事率、力学的エネルギー、国試問題	講義	
第 8 回	まとめ：全体の復習と国試問題を一緒に解く	講義	
第 9 回	筆記試験		

評価方法	■定期試験（ 90%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■宿題（ 10%） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学 中山書店 配布プリント
参考図書	PT・OT ゼロからの物理学 羊土社 物理学・臨床応用物理 医歯薬出版 など
留意事項	苦手意識はもたず、講義に参加してほしい。宿題は成績に反映されるので、提出期限を守る事。 提出が遅れた場合は受け付けない。 前回講義の復習などを含む講義前学習 90 分と講義後の復習学習 90 分を必ず、行い、理解しにくい所は、必ず、質問に来ること。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生物学	松本 英樹	1	2	前期	必修 選択

◇講義概要

生物学/生命科学の学習において、生命（いのち）を維持するしくみを学修する。

◇到達目標

「生命（いのち）を維持するしくみ」を学修し、「生命（いのち）の大切さ」を認識し、弱者（患者）に寄り添える自己形成を目指す。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第 1 回	生命と生物学・生命体のつくりとはたらき・生命の進化と多様性（序章・第 1 章・第 7 章）	講義	
第 2 回	生命と生物学・生命体のつくりとはたらき・生命の進化と多様性（序章・第 1 章・第 7 章）	講義	
第 3 回	生体維持のエネルギー（ATP 合成）（第 2 章）	講義	
第 4 回	生体維持のエネルギー（ATP 合成）（第 2 章）	講義	
第 5 回	生体維持のエネルギー（ATP 利用）・刺激の受容と行動（第 2 章・第 6 章）	講義	
第 6 回	生体維持のエネルギー（ATP 利用）・刺激の受容と行動（第 2 章・第 6 章）	講義	
第 7 回	刺激の受容と行動・個体の調節（第 6 章・第 5 章）	講義	
第 8 回	刺激の受容と行動・個体の調節（呼吸器系）（第 6 章・第 5 章）	講義	
第 9 回	個体の調節（消化器系・循環器系・泌尿器系）（第 5 章）	講義	
第 10 回	個体の調節（消化器系・循環器系・泌尿器系）（第 5 章）	講義	
第 11 回	ハツカネズミの解剖 （呼吸器系・循環器系・消化器系・内分泌系・尿生殖器系の理解）	実習	
第 12 回	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ（メンデル遺伝・ヒトの遺伝）（第 3 章）	講義	
第 13 回	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ（DNA/RNA の構造・DNA 複製）（第 3 章）	講義	
第 14 回	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ（転写・翻訳）（第 3 章）	講義	
第 15 回	直前試験対策（30 分）/終講試験（60 分）	講義 /試験	

評価方法	☒ 試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（中間テスト 20 %）
------	--

教科書	「系統看護学講座 基礎分野 生物学」（医学書院）
参考図書	(1) WEB 玉塾 「生物」・「解剖生理」 https://www.webtamajuku.com/ (2) 看護 roo 「解剖生理をおもしろく学ぶ」 https://www.kango-roo.com/sn/k/view/2348
留意事項	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
情報処理学	三井 哲裕	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

パーソナルコンピュータは電源が入っていないと使えず、電源を切ればデータが消えてしまうことを理解させ、機器を正しく使いファイルを作成する方法とデータを保存し再度利用できる技術を、実際に操作して学ばせる。ソフトウェアの操作法の基礎知識を理解させる。

◇到達目標

Word によりレポートを書き、Excel によりデータを表にまとめ、グラフを作成し、PowerPoint により発表原稿をスライドにまとめることが出来るようになる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	Word 文字入力, 文章編集	講義	
第 2 回	Word 画像, 表, 図の利用	講義	
第 3 回	Excel セルにデータ入力 数式・関数入力	講義	
第 4 回	Excel 表計算の基礎 グラフ	講義	
第 5 回	PowerPoint 文字入力 スライド作成 イラスト入力	講義	
第 6 回	PowerPoint デザイン アニメーション	講義	
第 7 回	総合応用	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☐ 試験 (%) ■実技試験 (100 %) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	2026 年最新改訂版ワード・エクセル・パワーポイント基本の使い方がぜんぶわかる本 スタンダードズ
参考図書	特になし。
留意事項	①USB メモリを用意する。 ②パソコンを自宅で利用できない者は、昼休み・放課後を使って学校のパソコンで自習する。 ③自宅にパソコンが有る者も、学校のパソコンの使い方が特殊なので学校のパソコンで自習して操作に慣れるようにする。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎統計学	出水 典子	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

統計学は、我々の身の周りにある様々なデータを解析して、直感や考えが正しいかどうかを確かめたり、新しい知識を帰納したりすることにある。確率、確率分布、期待値、仮説検定、推定及び分散分析などの基本的な概念について概説する。

◇到達目標

医療の現場で得られた種々の情報（データ）を解析するために必要な統計的手法を理解し、論文作成等で積極的に活用できるようになることを目的とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	研究法の基本、データ分析をする上で知っておくべきこと	講義	
第 2 回	記述統計学-事実把握のためにデータの特徴を表す方法	講義 小テ	
第 3 回	推測統計学 - 仮説を検定・母集団を推定する	講義 小テ	
第 4 回	相関・多変量解析(単・重回帰分析) - 2 変数間の関係をみる、予想する	講義 小テ	
第 5 回	複数の要因を利用して予測する：重回帰分析、t-検定、分散分析	講義 小テ	
第 6 回	小テスト（第 1 回－第 5 回）、国家試験問題対策まとめ	講義 小テ	
第 7 回	国家試験対策実践、総復習	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 90 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（ 10 %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	山田 覚 『医療・看護のためのやさしい統計学 基礎編』 東京図書
参考図書	特になし
留意事項	講義の最初に前回の講義内容に係る小テストを実施するので復習しておくこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション実技 I	中西 信之	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を学ぶ。
--

◇到達目標

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を修得する。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション	講義演習	
第 2 回	レクを楽しむ	講義演習	
第 3 回	健康観	講義演習	
第 4 回	ウォーキングトライ 300	講義演習	
第 5 回	アイサポート運動	講義演習	
第 6 回	野外スポーツ(スカイクロス)	講義演習	
第 7 回	野外スポーツ	講義演習	
第 8 回	生涯スポーツ 1	講義演習	
第 9 回	生涯スポーツ 2 (記録)	講義演習	
第 10 回	生涯スポーツ 3	講義演習	
第 11 回	車いすバスケ	講義演習	
第 12 回	車いすバスケ	講義演習	
第 13 回	音楽療法	講義演習	
第 14 回	音楽療法	講義演習	
第 15 回	レポートテスト	講義演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎
留意事項	学内の授業は講堂にて実施 運動は学校の指定・上靴使用 ※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります 資格取得科目につき現場実習が課せられます

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅰ-1	萬喜 佐知江	1	2	前期	必修 選択

◇講義概要

1. 骨学総論・骨学各論

今後学ぶ、関節学や筋学につながる講義である事は自覚してほしい。骨の基本的構造・発生・成長・リモデリングなどについて**国家試験レベル**まで、理解を深める事を目指す。骨学各論では、骨標本を使用し、骨の形・名称を理解し**覚えること**を目指す。これに関してはリーダーを決め、グループワークを実施する。

2. 筋学総論

人体における筋の**種類・構造・補助装置**等を学ぶ。また、起始・停止から**筋の作用を導き出せる**ようになる事を目指し、後期の筋学各論へつなげる。また、筋の**収縮様式**や骨格筋の**神経支配**も学び、後期の運動療法概論や解剖学Ⅲ（神経）につなげる。**国家試験レベル**まで、理解を深める事を目指す。

※夏休みに筋学各論に関しては課題あり。課題確認テストを後期に行い、後期の成績に含める。

◇到達目標

骨学総論

1. 骨の名前を覚え、形状による分類が説明できるようになる。
2. 骨の構造が説明できるようになる。(肉眼的構造・顕微鏡的構造)
3. 骨の発生・成長を理解し、説明できるようになる。(軟骨内骨化・膜内骨化・リモデリング)

骨学各論

1. 骨標本を使用し、骨表面の名称を覚えて口頭で説明できるようになる。
2. 骨標本を使用し、関節部分を連結できる。

筋学総論

1. 人体の筋の種類を理解し、その特徴を説明できるようになる。
2. 骨格筋の構造を理解し、口頭で説明できるようになる。
3. 骨格筋の補助装置について理解し、説明できるようになる。
4. 骨格筋の起始・停止・走行の意味を理解し、その筋の作用を導き出せるようになる。
5. 収縮のメカニズムや収縮様式の種類を理解し、説明できるようになる。
6. 筋間の相互作用を理解し、説明できるようになる。
7. 骨格筋の神経支配を理解し、説明できるようになる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	骨学総論（骨の種類・骨の名称・骨の数：P. 37～39、P. 46、P. 58、P. 68、P. 78）	講義 グループワーク（GW）	宿題あり
第2回	骨学総論（骨の構造：肉眼的構造と顕微鏡的構造：P. 39～40）	講義	小テスト 宿題あり
第3回	骨学各論（上肢の骨①鎖骨・肩甲骨・上腕骨をマスターする：P. 58～59）	GW	宿題あり
第4回	骨学総論（骨の血管・骨の機能：P. 41） 骨学各論（上肢の骨②・橈骨・尺骨をマスターする：P. 72～73）	講義 GW	小テスト 宿題あり
第5回	骨学総論（骨の発生：軟骨内骨化と膜内骨化①：P. 42～43）	講義	小テスト
第6回	骨学各論（下肢の骨①寛骨：腸骨・坐骨・恥骨：P. 78～81、②骨盤の構造：P. 81～82）	GW	宿題あり

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 7 回	骨学総論（骨の発生：軟骨内骨化と膜内骨化②：P.42～43） 骨学各論（下肢の骨③大腿骨・膝蓋骨：P. 82～85）	講義 GW	小テスト 宿題あり
第 8 回	骨学総論（骨の成長とリモデリング：P. 44～45） 骨学各論（下肢の骨④脛骨・腓骨：P. 85～88）	講義 GW	小テスト 宿題あり
第 9 回	骨学各論（下肢の骨⑤：足根骨・中足骨・趾骨：P. 86～92）	講義 GW	小テスト 宿題あり
第 10 回	骨学各論（上肢の骨③手根骨・中手骨・指骨：P. 74～77）	講義 GW	小テスト
第 11 回	試験（1 回目）・解説	筆記試験	
第 12 回	脊柱の骨（脊柱の骨①：脊柱全景・椎骨の基本的形態）：P. 58～59）	講義 GW	宿題あり
第 13 回	骨学各論（脊柱の骨②：頸椎・胸椎・腰椎：P. 59～62）	講義 GW	小テスト 宿題あり
第 14 回	骨学各論（脊柱の骨③：仙骨・尾骨、胸郭の骨①：胸郭の全景：P. 63～65）	講義 GW	小テスト
第 15 回	骨学各論（胸郭の骨②：胸骨・肋骨・肋軟骨：P. 65～67）	講義 GW	宿題あり
第 16 回	骨学各論（頭蓋の骨①：外面から見た頭蓋・内面から見た頭蓋：P. 46～51）	講義 GW	小テスト
第 17 回	骨学各論（頭蓋の骨②：頭蓋腔と外部との交通のまとめ新生児の頭蓋・頭蓋を構成する個々の骨：P. 51～57）	講義 GW	宿題あり
第 18 回	筋学総論（筋組織の種類と特徴・P. 161～166）	講義	小テスト
第 19 回	筋学総論（骨格筋の構造・骨格筋の補助組織・：P. 166～169）	講義	宿題あり
第 20 回	筋学総論（骨格筋の収縮のメカニズム・起始と停止・正作用・生理的作用・筋間の相互作用：P. 173～175）	講義	小テスト
第 21 回	筋学総論（収縮の種類・神経支配：P. 173～176）	講義	宿題あり
第 22 回	筋学総論（予備日）	講義	小テスト
第 23 回	全体のまとめ	講義	宿題あり
第 24 回	試験（2 回目）・解説	筆記試験	

評価方法	■試験（ 80%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20%） □レポート（ %） □その他（ %） ※定期試験と小テストの合算で評価する。 ※2 回の成績（定期試験と小テスト含）の平均点が 60 点以上である事。 ※再試は 1 回目の試験範囲と 2 回目の試験範囲を含む。
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学専門分野 解剖学第 4 版 医学書院 ※配布プリント
参考図書	プロメテウス解剖学アトラス、ネッター解剖学アトラス、人体の正常構造と機能など、教務室にある解剖学書をぜひ、何冊も見に来てください。
留意事項	必ず、講義後、 90 分の復習 を行う事。また、小テスト対策も含め、 事前復習も 90 分 行う事。講義の最初に前回分の小テストを実施する。60%未満の場合は金曜日の放課後に補習時間をもうけ、60%以上になるまで小テストを行う。GW に積極的に参加し繰り返し復習して覚える事。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学 I-2	萬喜 佐知江	1	2	後期	必修 選択

◇講義概要

筋学各論について学ぶ。上肢・下肢・体幹・頭部に存在する筋の起始・停止・走行を確認し作用を理解する。また、どの様な末梢神経に支配されているか、髄節はどこか、などの神経学にもつなげる。触診、MMT などの検査、また、運動療法や動作を考える上で土台となる基礎知識になるので、理解し覚えるレベルまで努力して頂きたい。

◇到達目標

1. 筋の起始・停止・走行を理解し覚え、筋の作用を自分で導き出すことができる。
2. 筋の末梢神経支配と髄節を覚える。
3. 触診・MMT などの実技時に活用できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	課題テスト 60 分 筋学総論（前期の残りと振り返り）	講義	
第 2 回	股関節に関わる筋群（1）前面・後面にある筋群	講義	グループワーク
第 3 回	股関節に関わる筋群（2）外側面・内側面にある筋群	講義	グループワーク
第 4 回	膝関節に関わる筋群	講義	グループワーク
第 5 回	足関節・足部に関わる筋群	講義	グループワーク
第 6 回	足の内在筋群	講義	
第 7 回	肩甲骨に関わる筋群	講義	グループワーク
第 8 回	肩関節に関わる筋群（1）前面・後面にある筋群	講義	グループワーク
第 9 回	肩関節に関わる筋群（2）外側面・内側面にある筋群	講義	グループワーク
第 10 回	肘関節・前腕に関わる筋群・	講義	グループワーク
第 11 回	試験（1 回目）	講義	
第 12 回	手関節に関わる筋群（1）前面の筋群（手関節屈筋群）	講義	グループワーク
第 13 回	手関節に関わる筋群（2）後面の筋群（手関節伸筋群）	講義	グループワーク
第 14 回	手の内在筋群・指背腱膜	講義	
第 15 回	背部の筋群（1）表層の筋群	講義	
第 16 回	背部の筋群（2）深層の筋群	講義	
第 17 回	腹部の筋群（1）前腹筋群・側腹筋群	講義	
第 18 回	腹部の筋群（2）後腹筋群・骨盤底筋群	講義	
第 19 回	頸部の筋群（1）浅頸筋群・側頸筋・舌骨上筋群	講義	
第 20 回	頸部の筋群（2）舌骨下筋群・深頸筋群	講義	
第 21 回	呼吸に関わる筋群	講義	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 22 回	咀嚼筋群・顔面筋群	講義	グループワーク
第 23 回	試験（2 回目）	講義	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 10%） □レポート（ %） ■その他（夏休みの課題確認テスト 10%） ※1 回目は上記にて判定する。 ※2 回目は筆記試験 80%+小テスト 10%にて判定する。 ※1 回目と 2 回目の結果の平均が 60 点以上を合格とする。
------	---

教科書	標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 4 版
参考図書	Know the body（医歯薬出版）運動療法のための機能解剖学的触診技術（メジカルビュー社） 筋骨格系のキネシオロジー（医歯薬出版）カパンディ関節の生理学（医歯薬出版）など
留意事項	講義後に必ず、60 分の復習を行い、知識の定着に努力する事。 2 回試験を行う。 1 回目は筆記試験 80%+夏休みの課題確認テスト 10%+小テスト 10%で判定する。 2 回目は定期試験 90%+小テスト 10%で判定する。 1 回目と 2 回目の平均点が 60 点以上であれば合格とする。 ※また、グループワークも行うので、必ず、グループで協力し、各自の勉強につなげる事。 ※講義後に必ず、60 分の復習を行うこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅱ	内海 眞子	1	2	前期	必修 選択

◇講義概要

多種多様である人体の構造と機能について説明する

- (1) 人体全体の血管の構造と機能、それに関連しているリンパの走行と機能の概要について
- (2) 人体内部の構造と機能の概要について

◇到達目標

解剖学Ⅱ (1)

人体の循環器系（細胞の活動に必要な物質の運搬、不要物質の回収するための流れ）の以下の内容が説明できる

- 1 心臓の構造と機能
- 2 血管系の各名称と構造
- 3 リンパ系の構造と機能
- 4 胎児の循環系について

解剖学Ⅱ (2)

人体の内臓の構造と機能を各分野に分け、詳細に身につける

消化器系・呼吸器系・泌尿器系・内分泌系・生殖器系

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	循環器系総論	講義	
第 2 回	循環器系各論 A 血管系 1 心臓	講義	
第 3 回	2 循環器系の分類・肺循環	講義	
第 4 回	3 体循環：動脈系 上行大動脈・大動脈弓	講義	
第 5 回	動脈系 胸大動脈	講義	
第 6 回	動脈系 腹大動脈	講義	
第 7 回	総復習（体循環）	講義	
第 8 回	4 中枢神経の血管系（動脈・静脈）	講義	
第 9 回	脊髄・硬膜・脳	講義	
第 10 回	5 体循環：静脈系 総論	講義	
第 11 回	静脈系 特殊循環系	講義	
第 12 回	静脈系 上大静脈・下大静脈	講義	
第 13 回	6 胎児の血液循環	講義	
第 14 回	B リンパ系	講義	
第 15 回	第 1 回試験	試験	
第 16 回	内臓学総論 内臓器官の基本構造	講義	
第 17 回	各論 1 消化器系 口腔～食道	講義	
第 18 回	消化器系 胃～大腸	講義	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 19 回	消化器系 肝臓～腹膜	講義	
第 20 回	2 呼吸器系 鼻～咽頭	講義	
第 21 回	呼吸器系 喉頭～胸膜・縦隔	講義	
第 22 回	総復習（消化器系・呼吸器系）	講義	
第 23 回	3 泌尿器系 腎臓・尿管	講義	
第 24 回	泌尿器系 膀胱・尿道	講義	
第 25 回	生殖器系 男性生殖器	講義	
第 26 回	生殖器系 女性生殖器	講義	
第 27 回	4 内分泌系 ホルモンと標的器官	講義	
第 28 回	内分泌系 下垂体～上皮小体	講義	
第 29 回	内分泌系 副腎～胸腺	講義	
第 30 回	総復習（泌尿生殖器系・内分泌系）	講義	
第 31 回	第 2 回定期試験	試験	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20%） ☐ レポート（ %） ☒ その他（定期試験 80%）
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学〈専門基礎分野〉 解剖学（医学書院）
参考図書	特になし
留意事項	教科書に沿って行う為、必ず範囲を一読しておく事 授業中のポイントを理解して習得する事 2 回の筆記試験を実施する 小テスト分（20%）と筆記試験（80%）で 1 回の成績を判定する 2 回の成績の合計点を 2 で割ったものが 60 点以上である事

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅲ	内海 眞子	1	2	後期	必修 選択

◇講義概要

生体内外の環境の変化に関与するための種々の機能がある。その機能の一つでもある神経系（中枢神経、末梢神経）、感覚器についての概要を詳細に説明する。
--

◇到達目標

解剖学Ⅲ(1) 人体の伝達作用を担当する神経系について理解習得する。末梢神経（脊髄神経、脳神経、自律神経）について詳細に理解し、説明ができる。
解剖学Ⅲ(2) 人間の生命を支えるために、どのようなシステムが働いているかを知る。中枢神経系と感覚器（皮膚感覚・視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚）について説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	神経系（中枢神経系、末梢神経系）の総論	講義	
第 2 回	各論 脊髄神経 頸神経 後枝・前枝（頸神経叢）	講義	
第 3 回	頸神経 前枝（腕神経叢）	講義	
第 4 回	胸神経	講義	
第 5 回	腰神経 後枝	講義	
第 6 回	腰神経 腰神経叢	講義	
第 7 回	仙骨神経 後枝・前枝（仙骨神経叢）	講義	
第 8 回	仙骨神経 坐骨神経・尾骨神経	講義	
第 9 回	各脊髄神経の損傷・麻痺	講義	
第 10 回	総復習（脊髄神経）	講義	
第 11 回	各論 脳神経の総論、第 1 脳神経～第 4 脳神経、第 6 脳神経	講義	
第 12 回	脳神経 第 5 脳神経、第 7 脳神経～第 12 脳神経	講義	
第 13 回	自律神経系 交感神経	講義	
第 14 回	副交感神経・腸壁内神経	講義	
第 15 回	第 1 回試験	試験	
第 16 回	神経学 神経学全般	講義	
第 17 回	中枢神経 1 脊髄	講義	
第 18 回	2 脳脊髄膜と脳脊髄液	講義	
第 19 回	3 脳幹（延髄）	講義	
第 20 回	脳幹（橋・中脳）	講義	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 21 回	4 小脳	講義	
第 22 回	5 間脳	講義	
第 23 回	6 終脳 大脳半球、表面と区分	講義	
第 24 回	終脳 大脳皮質の機能局在	講義	
第 25 回	7 神経路 上行性神経路	講義	
第 26 回	神経路 下行性神経路	講義	
第 27 回	感覚器 1 外皮 2 視覚器	講義	
第 28 回	2 視覚器	講義	
第 29 回	3 聴覚器、平衡覚	講義	
第 30 回	4 嗅覚器、 5 味覚器	講義	
第 31 回	第 2 回定期試験	試験	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20%） ☐ レポート（ %） ☒ その他（定期試験 80%）
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学〈専門基礎分野〉 解剖学（医学書院）
参考図書	特になし
留意事項	教科書に沿って行う為、必ず範囲を一読しておく事 授業中のポイントを理解して習得する事 2 回の筆記試験を実施する。 小テスト分（20%）と筆記試験（80%）で 1 回の成績を判定する 2 回の成績の合計点を 2 で割ったものが 60 点以上である事

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
体表解剖学 I	田守 康彦	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

理学療法士には視診・触診により、身体の組織異常を検出し同定する技術が必要である。学ぶ解剖学・運動学の知識に基づき、皮膚上から骨を中心に血管・筋・靱帯・神経を丁寧に確認し理解を深める。上肢・下肢・頸部・体幹と部位別に進行し、学生同士で実技を通して解剖学的位置関係を立体的に捉え、理学療法の実践に繋がる技術を習得する。

◇到達目標

- ①理学療法における視診・触診の目的を述べることができる。
- ②骨・筋・靱帯・神経・血管の位置関係について理解し説明できる。
- ③目的とした部位の視診・触診手順を説明・実践できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	総論・血管と神経	講義・実技	
第 2 回	骨の触診：肩甲骨	講義・実技	
第 3 回	骨の触診：上腕・前腕	講義・実技	
第 4 回	骨の触診：前腕・手関節	講義・実技	
第 5 回	骨の触診：脊柱・骨盤	講義・実技	
第 6 回	骨の触診：大腿骨・脛骨・腓骨	講義・実技	
第 7 回	骨の触診：腓骨・膝蓋骨・足部	講義・実技	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	・ Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて 日高 正巳(監訳) 医歯薬出版
参考図書	・ 触診解剖アトラス 第 3 版 奈良勲(監訳) 医学書院 ・ 機能解剖学的触診技術 上肢編, 下肢・体幹編 改訂第 2 版 青木隆明(監) MEDICAL VIEW ・ 新徒手筋力検査法 原著第 9 版 津山直一(訳) 協同医書出版社
留意事項	・ 授業前には当該授業部分の教科書等で予習し (90 分)、講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要やポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと (90 分)。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
体表解剖学Ⅱ	田守 康彦	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

理学療法士には視診・触診により、身体の組織異常を検出し同定する技術が必要である。解剖学・運動学の知識と体表解剖学Ⅰで学んだ技術に基づき、皮膚上から筋を中心として丁寧に確認し理解を深める。上肢・下肢・頸部・体幹と部位別に進行し、学生同士で実技を通して解剖学的位置関係を立体的に捉え、理学療法の実践に繋がる技術を習得する。

◇到達目標

- ①理学療法における視診・触診の目的を述べることができる。
- ②体表解剖学Ⅰで習得した骨・靱帯・神経・血管の位置関係を指標としながら目的筋を触診できる。
- ③目的とした筋の視診・触診手順を説明・実践できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	下肢筋の触診：股関節周囲	講義・実技	
第 2 回	下肢筋の触診：膝関節周囲	講義・実技	
第 3 回	下肢筋の触診：足関節周囲	講義・実技	
第 4 回	上肢筋の触診：肩甲帯・肩関節周囲	講義・実技	
第 5 回	上肢筋の触診：肩関節周囲・前腕	講義・実技	
第 6 回	上肢筋の触診：前腕・手部	講義・実技	
第 7 回	頸部・体幹筋の触診、総まとめ	講義・実技	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	・ Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて 日高 正巳(監訳) 医歯薬出版
参考図書	・ 触診解剖アトラス 第3版 奈良勲(監訳) 医学書院 ・ 機能解剖学的触診技術 上肢編, 下肢・体幹編 改訂第2版 青木隆明(監) MEDICAL VIEW ・ 新徒手筋力検査法 原著第9版 津山直一(訳) 協同医書出版社
留意事項	・ 触診しやすい服装(半袖、短パンなど)を着用し講義に臨むこと。テキストの確認中心に予習 90 分、触診手順確認含め復習 90 分を行うこと。内容の理解に努め意欲的に取り組むこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学 I	坂田 進	1	2	前期	必修 選択

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、細胞、組織、皮膚、骨、筋、血液、循環器、呼吸器において、これらの生理機能をその構造・疾病に関連づけて学習する。さらに、実習を通して生理機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。
3. 自らが被験者となる実習を通して学習内容の理解を深める。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	生理学とは？－ホメオスタシス	講義	
第 2 回	生理学とは？－フィードバック機構	講義	
第 3 回	細胞と組織 (1)－細胞の機能	講義	
第 4 回	細胞と組織 (2)－組織の機能	講義	
第 5 回	皮膚と膜 (1)－膜の機能	講義	
第 6 回	皮膚と膜 (2)－皮膚と機能	講義	
第 7 回	皮膚と膜 (3)－体熱産生、体温	講義	
第 8 回	骨格系 (1)－骨機能、骨形成、骨の改変	講義	
第 9 回	骨格系 (2)－頭蓋、体幹・体肢の骨格	講義	
第 10 回	骨格系 (3)－関節	講義	
第 11 回	筋系 (1)－筋の機能、収縮機序、エネルギー代謝	講義	
第 12 回	筋系 (2)－活動電位、運動単位、脊髄反射	講義	
第 13 回	筋系 (3)－骨格筋	講義	
第 14 回	血液 (1)－血球分化、機能	講義	
第 15 回	血液 (2)－ヘモグロビン、血液型	講義	
第 16 回	循環器系 (1)－心臓の機能	講義	
第 17 回	循環器系 (2)－興奮収縮連関、血圧	講義	
第 18 回	循環器系 (3)－胎児循環、リンパ系	講義	
第 19 回	呼吸器系 (1)－外呼吸、ガスの運搬、酸素解離曲線	講義	
第 20 回	呼吸器系 (2)－呼吸調節	講義	
第 21 回	実習 1－体温調節機能実習（実験データの取得）	演習	
第 22 回	実習 1－体温調節機能実習（実習レポート作成）	演習	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 23 回	実習 2－循環調節機能基礎実習（実験データの取得）	演習	
第 24 回	実習 2－循環調節機能基礎実習（実習レポート作成）	演習	
第 25 回	実習 3－循環調節機能応用実習 1－運動負荷等（実験データの取得）	演習	
第 26 回	実習 3－循環調節機能応用実習 1－運動負荷等（実習レポート作成）	演習	
第 27 回	実習 4－循環調節機能応用実習 2－息こらえ等（実験データの取得）	演習	
第 28 回	実習 4－循環調節機能応用実習 2－息こらえ等（実習レポート作成）	演習	
第 29 回	試験	試験	
第 30 回	解説	講義	

評価方法	■試験（ 62 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 8 %） ■小テスト（ 20 %） ■レポート（ 5 %） ■その他（グループ発表 5 %）
------	--

教科書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能（1） 解剖生理学 第 5 版 （メディカ出版） ナーシング・サプリー イメージできる解剖生理学 第 2 版 （メディカ出版）
参考図書	カラーで学ぶ解剖生理学 （医学書院）
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学Ⅱ	坂田 進	1	2	後期	必修 選択

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、消化器、腎、内分泌腺、生殖器、脳、感覚器、免疫系において、これらの生理機能をその構造・疾病に関連づけて学習する。さらに、実習を通して生理機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。
3. 自らが被験者となる実習を通して学習内容の理解を深める。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	消化器系 (1)－食欲、咀嚼、嚥下	講義	
第 2 回	消化器系 (2)－消化の生理	講義	
第 3 回	消化器系 (3)－吸収の生理	講義	
第 4 回	消化器系 (4)－排泄の生理	講義	
第 5 回	泌尿器系 (1)－腎の生理	講義	
第 6 回	泌尿器系 (2)－排尿の生理	講義	
第 7 回	内分泌系 (1)－ホルモンの種類と作用、脳ホルモン	講義	
第 8 回	内分泌系 (2)－甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン	講義	
第 9 回	内分泌系 (3)－膵ホルモン、副腎ホルモン	講義	
第 10 回	内分泌系 (4)－性腺ホルモン、腎ホルモン、心臓ホルモン	講義	
第 11 回	生殖器系 (1)－女性生殖器の生理	講義	
第 12 回	生殖器系 (2)－男性生殖器の生理	講義	
第 13 回	神経系 (1)－神経膠細胞、ニューロン、シナプス	講義	
第 14 回	神経系 (2)－中枢神経系	講義	
第 15 回	神経系 (3)－末梢神経系	講義	
第 16 回	神経系 (4)－生体リズム	講義	
第 17 回	感覚系 (1)－視覚、聴覚、平衡覚	講義	
第 18 回	感覚系 (2)－嗅覚、味覚、体性感覚、内臓感覚	講義	
第 19 回	免疫系 (1)－自然免疫系、獲得免疫系	講義	
第 20 回	免疫系 (2)－アレルギー、自己免疫疾患	講義	
第 21 回	実習 1－視覚機能の測定（実験データの取得）	演習	
第 22 回	実習 1－視覚機能の測定（実習レポート作成）	演習	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 23 回	実習 2－重量感覚の測定（実験データの取得）	演習	
第 24 回	実習 2－重量感覚の測定（実習レポート作成）	演習	
第 25 回	実習 3－味覚機能の測定（実験データの取得）	演習	
第 26 回	実習 3－味覚機能の測定（実習レポート作成）	演習	
第 27 回	実習 4－計算能力に及ぼすカフェインの影響（実験データの取得）	演習	
第 28 回	実習 4－計算能力に及ぼすカフェインの影響（実習レポート作成）	演習	
第 29 回	試験	試験	
第 30 回	解説	講義	

評価方法	☒ 試験（ 62 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 8 %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	ナースینگ・グラフィカ 人体の構造と機能（1） 解剖生理学 第 5 版 （メディカ出版） ナースینگ・サプリー イメージできる解剖生理学 第 2 版 （メディカ出版）
参考図書	カラーで学ぶ解剖生理学 （医学書院）
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎運動学 I	萬喜 佐知江	1	2	前期	必修 選択

◇講義概要

関節学総論では、人体における 3 種類の骨の連結と代表例を学ぶ。関節の一般構造・付属装置についても学び、関節の構造がイメージできる様に、また、自分で説明できるようになるまで、学ぶ。

関節学各論では、各々の下肢の連結の構造を学び、構造を理解した上で、骨運動の動きと関節包内運動の動きを学ぶ。

◇到達目標

1. 人体における 3 つの連結を理解し、代表例をあげて説明できる。
2. 下肢の連結の構造を理解し、説明できる。
3. 下肢の連結の構造を理解した上でどのような動きが生じるか説明できる。
4. 骨運動と関節包内運動においては、骨標本を使用し、説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	関節学総論（骨の連結：線維性連結・軟骨性連結・滑膜性連結）	講義	P. 85～86
第 2 回	関節学総論（滑膜性連結：関節の一般構造と付属装置）	講義	P. 87～88
第 3 回	関節学総論（関節の 3 つの分類：骨の数・運動軸の数・関節面の形状）	講義	P. 88～90
第 4 回	関節学総論（関節の機能・関節包内運動）	講義	P. 90～92
第 5 回	関節学総論（予備日）	講義	
第 6 回	関節学各論（下肢の連結①：下肢帯の連結の構造）	講義	P. 126～127
第 7 回	関節学各論（下肢の連結①：下肢帯の連結の動き）	講義・実技	P. 127～128
第 8 回	関節学各論（下肢の連結②：股関節の構造）	講義	P. 128～130
第 9 回	関節学各論（下肢の連結③：股関節の動き）	講義・実技	P. 130～131
第 10 回	関節学各論（下肢の連結④：膝関節の構造）	講義	P. 131～133
第 11 回	関節学各論（下肢の連結⑤：膝関節の動き）	講義・実技	P. 133～135
第 12 回	関節学各論（下肢の連結⑥：脛骨と腓骨の連結の構造）	講義	P. 136
第 13 回	関節学各論（下肢の連結⑦：脛骨と腓骨の連結の動き）	講義・実技	P. 136～137
第 14 回	関節学各論（下肢の連結⑧：距腿関節の構造）	講義	P. 137～138
第 15 回	関節学各論（下肢の連結⑨：距腿関節の動き）	講義・実技	P. 138
第 16 回	関節学各論（下肢の連結⑩：距骨下関節・距踵舟関節の構造）	講義	P. 138
第 17 回	関節学各論（下肢の連結⑪：距骨下関節・距踵舟関節の動き）	講義・実技	P. 139
第 18 回	関節学各論（下肢の連結⑫：踵立方関節・楔舟関節・楔立方関節の構造・動き）	講義・実技	P. 139～141

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 19 回	関節学各論（下肢の連結⑬：足根中足関節・中足間関節の構造・動き）	講義・実技	P. 141
第 20 回	関節学各論（下肢の連結⑭：中足趾節関節・趾節間関節の構造・動き）	講義・実技	P. 141～142
第 21 回	関節学総論（下肢の連結⑮：足のアーチについて）	講義	P. 142
第 22 回	総まとめ（今までの振り返り）※状況に応じて、まとめテスト実施	講義	
第 23 回	試験・解説		

評価方法	☒ 試験（ 80%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20%） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学 中山書店 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 4 版 医学書院 配布プリント
参考図書	カパンディ 関節生理学 I II III 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー 協同医書出版 関節・運動器の機能解剖 上肢・下肢編 医歯薬出版
留意事項	必ず、講義後学習として、90 分の復習を行う事。また、講義前学習として、講義前に、前回の復習含めて 90 分行う事。 講義の最初に前回分の小テスト（成績に入る）を実施する。小テストが 60%未満の場合は、金曜日の放課後に補習時間をもうけ、60%以上になるまで確認の小テストを行う。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎運動学Ⅱ	萬喜 佐知江 ・ 熊澤 浩一	1	2	後期	必修 選択

◇講義概要

【萬喜分】 各々の関節（連結）の構造を理解し、なぜ、その様な動きが生じるか説明できる様になることを目標とする。 【熊澤分】 姿勢と姿勢制御に関連する用語を学び、立位姿勢保持ならびに立位姿勢制御の仕組みを理解する。 歩行を観察・分析するために必要な用語を学び、歩行を運動学、運動力学、運動生理学観点から学ぶ。 小児・高齢者・異常歩行の特徴を知る。
--

◇到達目標

【萬喜分】 1. 正常な上肢・脊柱・胸郭・顎関節の構造（一般構造・付属装置）を理解し、説明できる。 2. その関節にどのような骨運動・関節包内運動があるか説明できる。 3. 靱帯などの軟部組織がどのような動きの時に緊張し、制限を加えるか説明できる。 4. 解剖学Ⅰで学んだ筋学の知識と結びつけて理解し、説明できる。 【熊澤分】 1. 人の姿勢について運動学的特徴を理解する。身体の重心、立位姿勢の制御について説明できる。 2. 歩行周期、歩行の運動学的、運動力学的特徴が分かる。 3. 小児・高齢者・異常歩行の特徴を説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	肩関節周辺機構（1）胸鎖関節・肩鎖関節・肩峰下関節の構造	講義	萬喜
第 2 回	肩関節周辺機構（2）肩甲上腕関節・第 2 肩関節の構造	講義	萬喜
第 3 回	肩関節周辺機構（3）肩関節周辺機構の動きとまとめ	講義	萬喜
第 4 回	肘前腕複合体（1）腕尺関節・腕橈関節・上橈尺関節の構造	講義	萬喜
第 5 回	肘前腕複合体（2）肘前腕複合体の動き・まとめ	講義	萬喜
第 6 回	手関節（1）橈骨手根関節・手根間関節・手根中央関節の構造	講義	萬喜
第 7 回	手関節（2）手関節の動き・まとめ	講義	萬喜
第 8 回	OR、姿勢① 姿勢とその制御、姿勢の種類、力学的にみた物体の安定性	講義	熊澤
第 9 回	手指の関節（1）手根中手関節・中手指節関節・指節間関節の構造	講義	萬喜
第 10 回	姿勢② 安静立位姿勢とその制御	講義	熊澤
第 11 回	手指の関節（2）手指の関節の動き・まとめ	講義	萬喜
第 12 回	姿勢③ 足圧中心、重心動揺計	演習	熊澤
	姿勢③ 外乱動揺下での立位姿勢制御、姿勢制御における感覚機構	講義	熊澤
第 13 回	上肢全体のまとめ（肩～手指）	講義	萬喜
第 14 回	姿勢④：予測的姿勢制御、歩行①歩行周期、距離・時間因子	講義	熊澤
第 15 回	脊柱の関節（1）椎体の連結	講義	萬喜

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 16 回	歩行② 身体重心の移動と下肢の関節運動、歩行時のエネルギー消費量	講義	熊澤
第 17 回	脊柱の関節（2）椎間関節	講義	萬喜
第 18 回	歩行③ 歩行時の床反力、足底圧中心、モーメント	講義	熊澤
第 19 回	脊柱の関節（3）脊柱の動き・まとめ	講義	萬喜
第 20 回	歩行④ 歩行時のモーメントと筋活動、ロッカーファンクション	講義	熊澤
第 21 回	胸郭の構造と動き	講義	萬喜
第 22 回	顎関節の構造と動き	講義	萬喜
第 23 回	全体のまとめ	講義	萬喜
第 24 回	歩行⑤ 歩行の神経機構、異常歩行、小児の歩行、高齢者の歩行	講義	熊澤
第 25 回	試験		萬喜 熊澤

評価方法	■試験（下記参照） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（下記参照） □レポート（ %） □その他（ %） ※萬喜分 75%・熊澤分 25%とし、合計 100%で判定する。 ※萬喜分の 75%のうち、10%分は小テストを加味する。 ※熊澤分の 25%のうち、5%分は小テストを加味する。 ※再試験に関しては、小テスト分は含まない。
------	--

教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学 中山書店 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 4 版 医学書院 観察による歩行分析 医学書院 配布プリント
参考図書	カパンディ 関節生理学ⅠⅡⅢ 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー 協同医書出版 関節・運動器の機能解剖 上肢・下肢編 医歯薬出版 臨床歩行分析ワークブック メジカルビュー社 他適宜紹介
留意事項	講義 1 週間後の小テストに向けて講義後必ず、復習を 60 分行う事。 萬喜分 関節学総論を必ず、復習しておく事。 熊澤分 力のモーメントについて、必ず、復習しておく事。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間発達学	中谷 充志	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

胎児期から新生児期、乳児期、学童期から青年期、老年期に至るまでの身体的、精神的発達の特徴を理解する。

◇到達目標

発育の概念について理解出来、各種発達、反射について説明出来るようになることを講義目標とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	人間の発達の概要について	講義	
第 2 回	胎生期、新生児期と乳児期の特徴について	講義	
第 3 回	運動発達と姿勢反射	講義	
第 4 回	コミュニケーションおよび言語の発達について	講義	
第 5 回	遊びの発達、日常生活の発達について	講義	
第 6 回	幼児期、児童期の発達について	講義	
第 7 回	青年期、成人期、老年期の発達について	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	イラストで分かる人間発達 医歯薬出版
参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学 医学書院
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病理学概論	前田 裕子	1	2	後期	必修 選択

◇講義概要

疾病の原因及び形態的变化を主要疾病と関連させながら基本的内容について講義する。
--

◇到達目標

根拠に基づいた的確な治療を行なうには、正常な人間の構造を理解したうえで、病気の原因、あるいは経過についても正しい知識が必要となる。本講では、疾病のおこるメカニズムを病因別に学び、その不調がどのように現れるかという実践的な捉え方ができるようになることを目的とする。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	総論 退行性病変、進行性病変	講義	
第 2 回	総論 代謝障害	講義	
第 3 回	総論 先天異常	講義	
第 4 回	総論 循環障害	講義	
第 5 回	総論 炎症・修復・免疫・アレルギー	講義	
第 6 回	総論 感染症	講義	
第 7 回	総論 腫瘍	講義	
第 8 回	中間試験・各論 循環器疾患	講義	
第 9 回	各論 血液疾患	講義	
第 10 回	各論 呼吸器疾患	講義	
第 11 回	各論 消化器疾患	講義	
第 12 回	各論 肝・胆・膵疾患	講義	
第 13 回	各論 泌尿生殖器疾患	講義	
第 14 回	各論 神経・筋・骨疾患	講義	
第 15 回	試験・まとめ	試験	

評価方法	☒試験 (70 %) ☐実技試験 (%) ☐演習評価 (%) ☒小テスト (30 %) ☐レポート (%) ☐その他 (%)
------	--

教科書	標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第 5 版 (医学書院)
参考図書	特になし
留意事項	各章が終わる時点で、問題プリントを配布するので、復習 (60 分) すること。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床心理学	後藤 千明	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

近年「心のケア」「心の教育」「癒し」といった言葉が登場しない日がないほど、心理学、特に臨床心理学への関心が高まっている。本講義では「心理的な悩み、不調、不適応を改善できない人々に対し、心理学の知識と技術を用いて体系的に行う専門的援助の学」である臨床心理学について概説する。

◇到達目標

臨床心理学の基本概念を知り、現代社会で注目される症例を中心にその知識と対策を知る。また、心理療法やカウンセリングのさまざまな立場や技法を理解し、説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション 臨床心理学とは		
第 2 回	「適応」と「治る」ということ、援助のプロセス		
第 3 回	問題の分類		
第 4 回	事例 自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症		
第 5 回	事例 学習障害、不登校、虐待		
第 6 回	事例 摂食障害、同一性障害		
第 7 回	事例 パーソナリティ障害、統合失調症など		
第 8 回	発達・人格理論 フロイト①		
第 9 回	発達・人格理論 フロイト②		
第 10 回	発達・人格理論 ユング		
第 11 回	発達・人格理論 ロジャーズ		
第 12 回	その他の発達理論		
第 13 回	さまざまな心理療法		
第 14 回	心理アセスメント、心理検査		
第 15 回	試験		

評価方法	☒ 試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (授業態度 10%・提出物 10%)
------	---

教科書	心とかかわる臨床心理 第 3 版 基礎・実際・方法 川瀬他著／ナカニシヤ書店
参考図書	適宜紹介する
留意事項	復習を行う (60 分) 講義内容は積極的なメモをとり手元のノート等で整理しておく。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床医学	北島 崇	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

・臨床各科で一般に診察される疾患を解剖学・生理学・病理学の観点から解説する ・理学療法の実践現場において、臨床各科の専門家とのディスカッションに必要な医学用語を理解活用できるように解説する

◇到達目標

理学療法を行うために必要な臨床医学の基礎知識を習得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	救命救急医療①（心肺蘇生法・ショック・呼吸管理 他）	講義	
第 2 回	救命救急医療②（輸血療法・救急処置・ICU の役割り 他）	講義	
第 3 回	外科総論①（機械的/非機械的損傷・感染性疾患 他）	講義	
第 4 回	外科総論②（末梢血行障害・腫瘍・臓器移植 他）	講義	
第 5 回	脳神経外科概論①（解剖生理・症候・病態 他）	講義	
第 6 回	脳神経外科概論②（補助診断法・主な疾患 他）	講義	
第 7 回	皮膚疾患①（解剖生理・病態・皮膚感染症 他）	講義	
第 8 回	皮膚疾患②（各種皮膚障害・皮膚腫瘍・皮膚付属器の疾患 他）	講義	
第 9 回	泌尿器・生殖器疾患（解剖生理・腎疾患・生殖器疾患 他）	講義	
第 10 回	婦人科・産科疾患（解剖生理・性周期・女性器腫瘍・妊娠分娩 他）	講義	
第 11 回	眼疾患（解剖生理・検査法・各種疾患 他）	講義	
第 12 回	耳鼻咽喉科疾患①（解剖生理・各種疾患 他）	講義	
第 13 回	耳鼻咽喉科疾患②（各種疾患・音声言語障害 他）	講義	
第 14 回	老年医学（高齢者ケア・各種疾患・薬物療法 他）	講義	
第 15 回	試験（解説）	試験・講義	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	「PT・OT・ST のための一般臨床医学 第 3 版」（医歯薬出版株式会社）
参考図書	なし
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内科学	竹澤 祐一	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

内科疾患は多岐にわたるため臓器別・系統別の各論を説明し、個々の内科疾患の理解を促したうえで診断などの総論を解説する。

◇到達目標

内科疾患を理解し、対象者の全身状態の把握が可能となることにより、リハビリテーションを効率よく安全に行うことができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	内科学とは	講義	
第 2 回	循環器疾患 1	講義	
第 3 回	循環器疾患 2	講義	
第 4 回	呼吸器疾患 1	講義	
第 5 回	呼吸器疾患 2	講義	
第 6 回	消化器疾患	講義	
第 7 回	肝胆膵疾患	講義	
第 8 回	血液・造血器疾患	講義	
第 9 回	代謝性疾患	講義	
第 10 回	内分泌疾患	講義	
第 11 回	腎・泌尿器疾患	講義	
第 12 回	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	講義	
第 13 回	感染症	講義	
第 14 回	リハビリテーションに必要な栄養学	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第 5 版（医学書院）
参考図書	なし
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年学	辻井 啓之	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

日本はますます高齢化が進むと予想される。医療・福祉・介護を学ぶにあたって、高齢者の特性を理解することは必要不可欠である。老年学とは聞き慣れない学問であろうが、高齢者の医学、老化学、社会学を包含する。

◇到達目標

基本的な知識と最新の情報の習得を目標とする。基礎となる内科学他、習得すべき範囲はかなり広いと言えるが、基礎的な知識は各臨床科目において十分に身につくものと考えられるので、その延長線上に高齢者が抱える特有の問題を敷衍して考えられれば理解しやすいと思われる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	序論	講義	
第 2 回	老化と老年病・加齢にともなう変化・性差	講義	
第 3 回	高齢者へのアプローチ	講義	
第 4 回	高齢者に多い症候と老年症候群	講義	
第 5 回	循環器疾患	講義	
第 6 回	呼吸器疾患	講義	
第 7 回	消化器疾患	講義	
第 8 回	骨・運動器疾患	講義	
第 9 回	神経疾患	講義	
第 10 回	精神疾患（認知症とうつ）	講義	
第 11 回	内分泌・代謝疾患、血液・免疫疾患	講義	
第 12 回	腎・泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患	講義	
第 13 回	感染症、耳鼻咽喉疾患、眼疾患	講義	
第 14 回	高齢者をとりまく環境、終末期医療	講義	
第 15 回	試験および解説	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学<専門基礎分野>老年学第 6 版：医学書院
参考図書	必要に応じて紹介する。
留意事項	授業は教科書に則して行う。また、進行度・理解度に応じて順序の変更、割愛もありうる。 シラバスの各回は、教科書に即しているので該当ヶ所の予習・復習を行うこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
整形外科 I	奥中 國之	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

対話形式の講義。理学療法の対象となることの多い整形外科疾患と、その治療法について学ぶ。具体的には骨・関節・筋・神経・軟部組織等の運動器に関する疾患や傷害の病態、病理、臨床症状、治療手技、予後等について学習する。

◇到達目標

整形外科の主疾患である脊椎、骨、関節疾患を理解する。
各々の専門性に活かせるように整形外科疾患・外傷の病態、その病態に基づいた治療についての基本的知識を身につけ理解することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	整形外科概論オリエンテーション	講義	
第 2 回	整形外科の診断と治療	講義	
第 3 回	脊椎外科 頸椎疾患 診断	講義	
第 4 回	脊椎外科 頸椎疾患 治療	講義	
第 5 回	脊椎外科 腰椎疾患 診断	講義	
第 6 回	脊椎外科 腰椎疾患 治療	講義	
第 7 回	脊椎外科の国家試験対策演習	講義・演習	
第 8 回	骨・関節外科 股関節の疾患（変形性股関節症 診断）	講義	
第 9 回	骨・関節外科 股関節の疾患（変形性股関節症 治療）	講義	
第 10 回	骨・関節外科 膝関節の疾患（変形性膝関節症 診断）	講義	
第 11 回	骨・関節外科 膝関節の疾患（変形性膝関節症 治療）	講義	
第 12 回	骨・関節外科 肩関節の疾患（関節外科の国家試験対策演習）	講義・演習	
第 13 回	骨・関節外科 関節リウマチ	講義	
第 14 回	骨・関節外科 骨腫瘍	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	標準 整形外科（医学書院）第 16 版
参考図書	特になし
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
整形外科学Ⅱ	奥中 國之	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

学生との対話形式の講義。理学療法の対象となることの多い整形外科疾患と、その治療法について学ぶ。具体的には、整形外科の対象となる骨・関節・筋・神経・軟部組織等の運動器に関する外傷の病態、病理、臨床症状、治療手技、予後等について学習する。

◇到達目標

臨床学としての整形外科の基礎を身に付ける。各々の専門性を活かせるように整形外科疾患・外傷の病態、その病態に基づいた治療についての基本的知識を身につけ理解することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	スポーツクリニック（膝内障）	講義	
第 2 回	スポーツクリニック（肩腱板損傷，肩・足関節靱帯損傷）	講義	
第 3 回	手の外科（マイクロサージェリー）	講義	
第 4 回	手の外科（上肢の末梢神経麻痺）/スポーツ・手の外科国家試験演習	講義・演習	
第 5 回	小児整形外科（先天性股関節脱臼）	講義	
第 6 回	小児整形外科（ペルテス病）	講義	
第 7 回	小児整形外科（特発性側弯症）/小児整形外科国家試験演習	講義・演習	
第 8 回	感染症（化膿性関節炎，骨髓炎）	講義	
第 9 回	神経・筋疾患（ALS，筋ジストロフィー）	講義	
第 10 回	災害外科 脊髄損傷（頸髄損傷）	講義	
第 11 回	災害外科 脊髄損傷（腰髄損傷）	講義	
第 12 回	災害外科（大腿骨頸部骨折）	講義	
第 13 回	災害外科（脱臼・骨折）/災害外科国家試験演習	講義・演習	
第 14 回	骨粗鬆症と骨折	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準 整形外科学（医学書院）第 16 版
参考図書	特になし
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に臨むこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経科学 I	辻井 啓之	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

神経科学 I においては、中枢神経系の解剖と機能、神経学的診断と評価、症候学と神経科学 II を理解するための基礎を学ぶ。大変重要な部分なので、十分な理解を目指す。

◇到達目標

近年の高齢化の進行により、リハビリテーションの対象となる疾患における中枢神経系の疾患が、骨関節疾患とともに中心となっている。中枢神経疾患を理解するための基本的な知識と最新の情報の習得を目標とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	序論	講義	
第 2 回	中枢神経系の解剖と機能	講義	
第 3 回	神経学的診断と評価	講義	
第 4 回	神経学的検査法	講義	
第 5 回	意識障害・脳死・植物状態	講義	
第 6 回	頭痛・めまい・失神	講義	
第 7 回	運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮	講義	
第 8 回	錐体外路徴候・不随意運動	講義	
第 9 回	運動失調・感覚障害	講義	
第 10 回	高次脳機能障害 I（失認・失語・失行）	講義	
第 11 回	高次脳機能障害 II（注意障害・遂行機能障害）	講義	
第 12 回	構音障害	講義	
第 13 回	嚥下障害	講義	
第 14 回	脳神経外科領域の疾患	講義	
第 15 回	試験および解説	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学<専門基礎分野>神経内科学第 6 版：医学書院
参考図書	必要に応じて紹介する。
留意事項	授業は教科書に則して行う。また、進行度・理解度に応じて順序の変更、割愛もありうる。 シラバスの各回は、教科書に即しているなので、該当箇所の予習・復習を行うこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経科学Ⅱ	辻井 啓之	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

神経科学Ⅱでは神経疾患各論、神経疾患合併症を取り扱う。

◇到達目標

近年の高齢化の進行により、リハビリテーションの対象となる疾患において、中枢神経系の疾患が、骨関節疾患とともにますます重要になっている。中枢神経疾患を理解するための基本的な知識と最新の情報の習得を目標とする。神経科学Ⅰで学んだ症候学の知識をもとに、十分な理解を目指してほしい。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	脳血管障害	講義	
第 2 回	認知症	講義	
第 3 回	脳腫瘍	講義	
第 4 回	外傷性脳損傷（軸索障害を含む）	講義	
第 5 回	脊髄疾患	講義	
第 6 回	変性疾患（錐体外路系を除く）・脱髄疾患	講義	
第 7 回	錐体外路の変性疾患	講義	
第 8 回	末梢神経障害	講義	
第 9 回	てんかん	講義	
第 10 回	筋疾患	講義	
第 11 回	感染性疾患	講義	
第 12 回	中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患	講義	
第 13 回	小児神経疾患	講義	
第 14 回	神経疾患に多い合併症	講義	
第 15 回	試験および解説	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学<専門基礎分野>神経内科学第 6 版：医学書院
参考図書	必要に応じて紹介する。
留意事項	授業は教科書に則して行う。また、進行度・理解度に応じて順序の変更、割愛もありうる。 シラバスの各回は、教科書に即しているので該当ヶ所の予習・復習を行うこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神医学	杉山 龍	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

精神医学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（器質性精神障害、機能的な精神障害、神経性精神障害、人格障害、児童期・青年期の発達障害、老年期の障害）について学ぶ。

◇到達目標

各精神疾患の特徴と疾患原因の仮説を概説できる。
治療薬の標的と治療過程における変化を関連づける。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	精神障害の診断と評価	講義	
第 2 回	発達障害①総論・ASD	講義	
第 3 回	発達障害②ADHD・その他	講義	
第 4 回	統合失調症	講義	
第 5 回	統合失調症	講義	
第 6 回	気分障害（1）大うつ病性障害	講義	
第 7 回	気分障害（1）大うつ病性障害	講義	
第 8 回	気分障害（2）双極性障害	講義	
第 9 回	気分障害（2）双極性障害	講義	
第 10 回	向精神薬総論	講義	
第 11 回	向精神薬各論	講義	
第 12 回	神経症	講義	
第 13 回	器質性精神障害	講義	
第 14 回	質疑応答	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	こころの健康がみえる 第1版（メディックメディア）
参考図書	New Simple Step 精神科（総合医学社）
留意事項	事前に予習、復習をすること

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児科学	奥野 毅彦	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

- ・小児科学概論：小児の特徴（成長・発育と発達）と注意点、診断と治療の概要について学ぶ。
- ・小児科学各論：新生児・未熟児疾患、先天性異常・遺伝病、神経筋骨系疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、感染症、消化器疾患、内分泌・代謝疾患などを学ぶ。

◇到達目標

- ・小児の特徴（成長・発育と発達）を説明できる。
- ・小児疾患の診断や治療の概要を理解する。
- ・各疾患の特徴・病態を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	小児科学概論	講義	
第 2 回	診断と治療の概要、新生児・未熟児疾患	講義	
第 3 回	先天異常と遺伝病、神経・筋・骨系疾患 1	講義	
第 4 回	神経・筋・骨系疾患 2 （発達障害を中心に）	講義	
第 5 回	循環器疾患、呼吸器疾患	講義	
第 6 回	感染症	講義	
第 7 回	消化器疾患、内分泌・代謝疾患	講義	
第 8 回	試験・まとめ	講義・試験	

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第 6 版 医学書院
参考図書	特になし
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床薬理学	前田 和宏	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

本講義の臨床薬理学は、理学療法士にとって、2018 年 10 月の理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則等改正に伴ってさらに重要な科目となった。また、学問体系として、この臨床薬理学は基礎となる薬理学の応用である。あらゆる機会・現場を通じて高品質なサービスを提供するために、理学療法士の教養の根幹である薬理学に加え、臨床薬理学のエッセンスを学ぶ。

◇到達目標

薬物の基本的事項について理解する
 ① 薬物の作用機序について説明できる
 ② 薬物の投与方法について説明できる
 ③ 薬物の体内動態について説明できる
 対象疾患に対する薬物療法について理解する
 ① 運動器系疾患に対する薬物療法について説明できる
 ② 神経系疾患に対する薬物療法について説明できる
 ③ 呼吸・循環器・代謝系疾患に対する薬物療法について説明できる
 ④ その他の疾患に対する薬物療法について説明できる
 薬物の副作用と多剤服用（ポリファーマシー）症状について理解する
 ① 薬物の副作用について説明できる
 ② 薬害について説明できる
 ③ 多剤服用（ポリファーマシー）症状について説明できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	薬理学総論：医薬品と、その適切な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物治療の基本概念を学ぶ。 ・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む） ・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用 ・リスクマネジメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性	講義	
第 2 回	感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	
第 3 回	神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	
第 4 回	精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	
第 5 回	循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	
第 6 回	疼痛の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 7 回	注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。	講義	
第 8 回	試験		

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）
参考図書	特になし
留意事項	・資料の下調べをしておくこと（予習 60 分） 又は ・講義内容についてレポートまたはテキストをまとめること（復習 60 分）

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
栄養学	出水 典子	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

リハビリテーションの専門職が運動や活動に必要なエネルギー量と栄養素を正しく理解することは、心身の機能改善のみならず活動や社会参加の向上とともに健康観の改善に結びつく。
本講義では、栄養の補給について分子レベルの構造や機能を理解することを基本とし、様々な病態における栄養指導法についても理解を深める。

◇到達目標

栄養の基礎について理解する。
五大栄養素の構造、消化・吸収・代謝や、特に消化・吸収を行う消化器官についての基礎的な知識を身につける。ただの豆知識ではなく、栄養学の基本から理解することを目標とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	リハビリテーション栄養とは、栄養補給ルート、消化と吸収	講義	Chapter7・13
第 2 回	同化異化、三大栄養素：糖質・脂質・タンパク質	講義 小テ	Chapter2・3・5
第 3 回	五大栄養素：ビタミン・ミネラル、酵素・ホルモン	講義 小テ	Chapter4・6
第 4 回	エネルギー代謝	講義 小テ	Chapter8
第 5 回	運動と栄養、運動効果を高める食事・栄養摂取	講義 小テ	Chapter9
第 6 回	リハビリテーションと栄養、栄養評価	講義 小テ	Chapter10・11
第 7 回	主な病態の栄養管理、摂食嚥下	講義 小テ	Chapter12・14
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	内山靖 (著) リハベーシック 生化学・栄養学 第2版 医師薬出版株式会社
参考図書	若林秀隆 (著) PT/OT/ST のためのリハビリテーション栄養 基礎からリハ栄養ケアプロセス 第3版 医師薬出版株式会社
留意事項	講義の最初に前回の講義内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論 I	田守 康彦 田中 研志 (他、複数教員)	1	2	前期	必修 選択

◇講義概要

近年、リハビリテーションという言葉は多用されるが、その本質は単なる機能回復訓練に留まらない。本講義では、語源や歴史的背景を紐解き、「人間らしく生きる権利の回復」という本来の定義と理念を詳説する。また、障害を多角的に捉える視点を養うとともに、各専門職の役割を理解し、多職種が連携するチームアプローチの重要性について学ぶ。

◇到達目標

- ・リハビリテーションの理念・定義を理解することができる。
- ・リハビリテーションの 4 領域について説明することができる。
- ・障害の心理や家族心理、障害受容について説明することができる。
- ・心身機能・身体構造・活動・参加・背景因子（環境因子および個人因子）について説明することができる。
- ・理学療法の対象となる障害について ICIDH、ICF の概念を理解し、基本的に ICF 分類することができる。
- ・ADL、IADL、QOL の違いを説明し、その評価法を説明できる。
- ・他職種の役割、位置づけなどを理解し、チームの一員としての自覚を持つことができる。
- ・社会保障制度の種類について列挙できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	リハビリテーションの理念・歴史・定義 リハビリテーションの 4 分野	講義	田中
第 2 回	ノーマライゼーション・ユニバーサルデザイン・バリアフリーについて	講義	田中
第 3 回	廃用症候群・過用症候群・誤用症候群について	講義	田中
第 4 回	疾患と障害の関係 (ICIDH・ICF について)	講義	田守
第 5 回	疾患と障害の関係 (ICIDH・ICF について) 障害の理解	講義	田守
第 6 回	ADL, QOL の概念と評価法 日常生活を支援する車椅子、装具、福祉用具について	演習	田守
第 7 回	医療・福祉と法律	講義	田中
第 8 回	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム	演習	田守
第 9 回	専門種連携・合同授業 (6/24)	講義	グループ ワーク
第 10 回	専門種連携・合同授業 (6/24)	講義	グループ ワーク
第 11 回	看護師の業務と理学療法士との関わり (看護学科教員による)	講義	田守
第 12 回	介護福祉士の業務との理学療法士との関わり (介護福祉学科教員による)	講義	田守
第 13 回	言語聴覚療法と言語聴覚療法士 (言語聴覚士教員による)	講義	田守
第 14 回	作業療法と作業療法士 (作業療法士教員による) チームアプローチ (私たちの大切な医療チーム (他職種の理解)) まとめ	講義	田守
第 15 回	筆記試験	試験	田中

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	・リハビリテーション総論 改訂第 4 版 診断と治療者 ・配布資料
参考図書	・入門リハビリテーション概論 第 7 版, 医歯薬出版株式会社 ・医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第 4 版, 永井書店 ・国際生活機能分類 世界保健機関 (WHO), 中央法規 ・理学療法概論テキスト 第 4 版, 南江堂 ・PT・OT ビジュアルテキスト 理学療法概論, 羊土社 ・チーム医療を成功させる 10 か錠, 中山書店
留意事項	・事前学習・事後学習 (予習・復習) 講義の学修内容、学修到達目標を確認し、事前にテキストなどで 90 分予習、90 分の復習を行い、不明点は教員に質問してください。 ※状況により、講義内容の順番が入れ替わることもある。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論Ⅱ	田中 研志	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

- ・リハビリテーション概論Ⅱでは、一般市民への応急手当普及の重要性が強く言われており、また国家試験でも問われていることも踏まえ、一次救命処置の方法を学ぶ。
- ・近年、産業保健、予防医学および災害時医療への参画も理解を深める必要性があり学習する。
- ・前期に学習したチーム医療（関連職種連携）について事例を通して学習する。

◇到達目標

- ・一次救急処置とリハビリテーション医療における安全管理を理解することができる。
- ・産業理学療法について興味を持つことができる。
- ・予防理学療法について興味を持つことができる。
- ・災害時の医療について興味を持つことができる。
- ・関連職種連携について理解することができる。
- ・リハビリテーションに対する視野を広げることができる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	予防医学と理学療法	講義	田中
第 2 回	産業衛生と理学療法（腰痛予防を中心に）	講義	田中
第 3 回	リハビリテーション医療の安全管理（一次救命処置中心）について	講義	田中
第 4 回	関連職種連携について	講義	田中
第 5 回	連携について事例を通して考える	講義	田中
第 6 回	リハビリテーションの視野を広げる。（現場で理学療法士とケアマネージャー兼任されているセラピストの話）	講義	小西
第 7 回	災害時におけるメディカルスタッフの役割	講義	田中
第 8 回	終講試験	講義	田中

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ ミニレポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	指定なし 基本的に資料は配布します。
-----	-----------------------

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

参考図書	・ 予防と産業の理学療法, 南江堂 ・ 医療福祉をつなぐ関連職種連携, 南江堂 ・ レーニングシリーズ IP 保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践①②③⑤, 協同医書出版社 ・ 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 予防理学療法, 中山書店
留意事項	・ 事前学習・事後学習（予習・復習） 講義の学修内容、学修到達目標を確認し、事前に配布資料やテキストなどで 90 分予習をしてから講義に臨んでください。 事後学習として講義終了後に必ず 90 分の復習を行い、理解できたこと、できなかったことを整理、書き出しを行い、教員に質問してください。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
公衆衛生学	北島 崇	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

公衆衛生学は人々の健康保持向上を集団レベルとして捉える学問である。健康を守るためには、環境、感染症予防、個人衛生、医療・社会保障制度などさまざまな分野との連携が重要である。本科目では公衆衛生の基本的内容とこれに関連する諸制度についての講義を行う。

◇到達目標

- ・公衆衛生の概念、健康の意味、健康と環境との関係について理解し、説明できる
- ・感染症、生活習慣病、母子保健、学校保健、産業保健について理解し、説明できる
- ・医療および介護の保障制度、健康推進活動について理解し、説明できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	公衆衛生の概念、健康の意味、健康と環境、健康指標	講義	
第 2 回	感染症予防、食品保健	講義	
第 3 回	生活環境保全	講義	
第 4 回	医療・介護制度、地域保健活動	講義	
第 5 回	母子保健、学校保健、産業保健	講義	
第 6 回	生活習慣病、難病対策	講義	
第 7 回	健康教育・ヘルスプロモーション、精神保健福祉	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (90%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	「わかりやすい 公衆衛生学」大阪母子医療センター（編集）、ヌーヴェルヒロカワ（発行）
参考図書	（なし）
留意事項	講義終了前に、授業内容の振り返り小テストを実施する

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法学概論	米田 文博	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

理学療法学概論とは、理学療法について理解を深める講義である。理学療法を理解する上で必要な関係法規や職域、理学療法士になる上で必要な教育内容、基本的な理学療法の過程等を学ぶ。

◇到達目標

- ・理学療法の定義、歴史などを理解し説明することができる。
- ・理学療法の対象と領域を説明することができる。
- ・理学療法の実施過程を理解し、説明することができる。
- ・理学療法士に必要な資質を理解し、説明することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	理学療法、理学療法士とは【第 1 章】 理学療法と障害	講義	米田
第 2 回	理学療法士に関する法律、各種保険制度【第 2 章、11 章】	講義	米田
第 3 回	理学療法士の役割①:理学療法士に求められる使命と倫理【第 3 章】	講義	米田
第 4 回	理学療法の役割②:理学療法の対象と領域【第 3 章】 理学療法士に求められる臨床思考【第 4 章】	講義	米田
第 5 回	理学療法過程（理学療法の実際の流れ）【第 5 章】	講義	米田
第 6 回	理学療法士の活躍領域と職能【第 6、7 章】 理学療法(士)教育①現状と課題【第 8 章】	講義	米田
第 7 回	理学療法(士)教育②臨床実習【第 9 章】 障害受容について	講義	米田
第 8 回	試験	試験	米田

評価方法	■試験 (90%) □実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	■小テスト (10%) □レポート (%)	□その他 (%)

教科書	・シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂第 4 版, 南江堂
参考図書	・PT・OT ビジュアルテキスト 理学療法概論第 2 版, 羊土社 ・PT 入門 イラストでわかる 理学療法概論, 医歯薬出版株式会社 ・15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法概論, 中山書店 ・理学療法概論 第 7 版補訂, 歯薬出版株式会社 ・標準理学療法 専門分野 理学療法概説, 医学書院
留意事項	・事前学習・事後学習（予習・復習） 講義の学修内容および学修到達目標を確認し、事前に配布資料やテキストなどで 90 分の予習を行い講義に臨むこと。事後学習として講義終了後に 90 分の復習を行い、疑問点は教員に質問をすること。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動療法学概論	熊澤 浩一	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

理学療法における運動・運動療法について説明する。各種運動療法をおこなう上で必要となる解剖学、運動学、生理学の基礎知識を整理し、運動療法との関連付けを伝える。また、運動制御や運動学習、運動時の呼吸・循環・代謝についての基礎知識を講義する。

◇到達目標

1. 運動・運動療法について基本的な概念が説明でき、運動療法の種類や目的を知る。
2. 運動療法に必要な解剖学、運動学、生理学の知識を身につける。
3. 随意運動とその制御、運動学習、運動と呼吸・循環・代謝の関係について説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション 運動と運動療法、理学療法のなかの運動療法	講義	
第 2 回	関節運動① 関節の分類、滑膜性関節の構造、関節の機能 関節の運動様式、関節と筋収縮	講義	
第 3 回	関節運動② 関節運動の制限、筋収縮の分類（収縮様式）、	講義	
第 4 回	筋と筋収縮① 骨格筋の構造 筋収縮のエネルギー	講義	
第 5 回	筋と筋収縮② 筋の長さや張力の関係、収縮速度と張力の関係、筋線維の種類、運動単位、筋収縮の調節	講義	
第 6 回	随意運動と運動制御の生理	講義	
第 7 回	運動学習（運動制御と運動学習）	講義	
第 8 回	運動と呼吸・循環・代謝	講義	

評価方法	■定期試験（ 70%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 10%） ■レポート（ 20%） □その他（ %） ※再試験の際は定期試験 80%、レポート 20%で評価する 【レポート課題】表紙と引用・参考文献を除き 5 枚以内。手書き・PC 入力とも可。
	1. 【筋収縮】 ①収縮様式の説明（求心性・遠心性・等尺性・等速性収縮について） ②筋の収縮過程（興奮収縮連関について） 電氣的側面（活動電位、電位の伝播）、化学的側面（ATP の合成・分解）、機械的側面（フィラメントの滑走などの 3 つの視点から説明する。 10 月 26 日（月）提出 2. 【運動と神経】 ①伸長反射・I b 抑制・相反神経支配の仕組み 11 月 30 日（月）提出

教科書	標準理学療法学専門分野 運動療法学総論第 5 版 吉尾雅春 医学書院
参考図書	15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学第 2 版 中山書店・他適宜紹介
留意事項	講義始めに前回の講義内容の小テストを実施する。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態運動学	久野 剛史・徳久 謙太郎・梅山 麻里菜	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

【久野】 - 各整形外科疾患において定型的にみられる主な病態、機能障害、運動障害、さらにそれらの因果性について学ぶ。 【徳久】 - 症状や動作に大きな特徴のあるパーキンソン病について、まずはその病態やメカニズムを学び、その活動と参加への影響について考える。そして症例のビデオを用いて動作観察・分析を行い、その治療や対処方法について実技を行う。 【梅山】 - 脳血管疾患における主な病態、特徴について説明する。 - 脳血管疾患の特徴的な動作について説明し、動作観察のポイントや評価、治療について学ぶ。

◇到達目標

【久野】 - 各整形外科疾患において定型的にみられる主な病態を説明できる。 - 各整形外科疾患において定型的にみられる主な病態により起こる機能障害、運動障害を理解できる。 - 各整形外科疾患において定型的にみられる主な病態、機能障害、運動障害の因果性について理解できる。 【徳久】 - パーキンソン病の病態が基本動作や日常生活活動におよぼす影響について理解する。 - パーキンソン病患者の動作観察・分析を通じて、効果的な理学療法プログラムの検討ができる。 【梅山】 - 脳血管疾患における主な病態、特徴について理解できる。 - 動作観察や疾患から評価項目を列挙し、リスク管理や予後予測、治療プログラムの検討ができる。 - 動作観察において、グループワークで自分の意見を述べ、他者にアウトプットすることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	股関節の病態運動学①(大腿骨近位部骨折)	講義	久野
第 2 回	股関節の病態運動学②(変形性股関節症)	講義	久野
第 3 回	股関節の病態運動学③(症例検討グループワーク)	講義	久野
第 4 回	股関節の病態運動学④(症例検討グループワーク)	講義	久野
第 5 回	肩関節の病態運動学(拘縮と可動域制限の診方)	講義・実技	久野
第 6 回	膝関節の病態運動学 (周辺骨折の可動域制限)	講義	久野
第 7 回	膝関節の病態運動学 (人工関節置換術と炎症)	講義	久野
第 8 回	足関節の病態運動学(足関節周辺骨折の可動域制限拘縮)	講義	久野
第 9 回	脊椎の病態運動学(骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折)	講義	久野
第 10 回	整形外科疾患(運動器)の病態運動学(復習・まとめ)	講義	久野
第 11 回	脳血管疾患の病態と特徴	講義	梅山
第 12 回	脳血管疾患の評価と治療 (リスク管理、予後予測)	講義	梅山

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 13 回	パーキンソン病の病態理解と動作の特徴：座学	講義	徳久
第 14 回	パーキンソン病患者の動作評価と治療戦略：座学・実技	講義・実技	徳久
第 15 回	動作観察とグループワーク（発表あり）	講義	梅山
第 16 回	定期試験		

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（定期試験 87% 講義内発表 13%）
------	---

教科書	標準理学療法学 病態運動学 医学書院 プリント配布
参考図書	【久野】 適宜紹介する。 【徳久】 課題別・理学療法技術ガイド【課題をどうとらえ、いかに実践するか】 文光堂 【梅山】 モーターコントロール 医歯薬出版
留意事項	【久野】 予習として事前に配布プリントに目を通し、復習も十分に行うこと。 【徳久】 講義の最初にパーキンソン病の病態に関するテストを実施するので予習しておくこと。 講義後は内容について十分に復習すること。 【梅山】 脳の解剖や機能、正常歩行動作について復習しておくこと。講義内容は配布プリントを中心に復習すること。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床運動学	中西 秀樹	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

ヒトの基本動作における身体的なメカニズムを学習する。実習を通して正常動作の観察・分析を整理し、グループ単位で発表形式を通して学習します。

◇到達目標

グループ単位で実習を通して運動力学的に各動作の観察、分析が理解できるようにする。毎回、発表形式で進めますので、各々がまとめて発表できるように能動的に参加しましょう。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	動作観察、分析について 身体運動のバイオメカニクスについて	講義・演習	
第 2 回	動作観察、分析について 身体運動のバイオメカニクスについて	講義・演習	
第 3 回	座位（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義	
第 4 回	座位（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義・演習	
第 5 回	立位（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義	
第 6 回	立位（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義・演習	
第 7 回	立ち上がり（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義	
第 8 回	立ち上がり（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義・演習	
第 9 回	ねがえり（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義	
第 10 回	ねがえり（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義・演習	
第 11 回	起き上がり（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義	
第 12 回	起き上がり（概要、特徴） 実習による動作観察、分析	講義・演習	
第 13 回	歩行（正常歩行の特徴）	講義	
第 14 回	歩行（正常歩行の特徴）	講義・演習	
第 15 回	異常歩行の観察、分析（ビデオにて） まとめ	講義	
第 16 回	異常歩行の観察、分析（ビデオにて） まとめ	講義・演習	
第 17 回	定期試験	試験	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（定期試験 70% 授業態度 30%）
------	--

教科書	資料を配布します。
参考図書	・標準理学療法学 臨床動作分析（医学書院） ・理学療法士のための運動療法（金原出版） ・動作分析 臨床活用講座-バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践（MEDICAL VIEW） ・観察による歩行分析（医学書院） ・その他
留意事項	演習ではグループワークおよび発表があります。能動的に参加しましょう。 講義をしっかりと理解するために、対象動作を下調べして自分なりに理解すること、および学習を深めて理解するために資料を自分の言葉でまとめましょう。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
動作分析学	長坂 俊昌	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

動作観察・姿勢観察および分析の基礎を、座学と実習を交えて講義する。

◇到達目標

動作観察・姿勢観察および分析の基礎知識の習得
動作観察・姿勢観察および分析の実践方法が理解できる
各課題について、講師の観察・分析が理解できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション 動作観察・分析の体験	実習	
第 2 回	姿勢制御について	講義	
第 3 回	静止姿勢の観察概論	講義	
第 4 回	静止姿勢の観察	講義・実習	
第 5 回	動作・姿勢観察の手法について	実習	
第 6 回	歩行観察	実習	課題あり
第 7 回	歩行観察	講義	
第 8 回	歩行観察	講義	
第 9 回	歩行観察 実践	実習	
第 10 回	歩行観察 実践	実習	レポート
第 11 回	歩行観察 グループワーク	実習	
第 12 回	歩行観察 発表	実習	
第 13 回	3次元解析装置について	講義	
第 14 回	立ち上がり	講義	
第 15 回	立ち上がり 実践	実習	
第 16 回	立ち上がり 実践（記録）	実習	課題あり
第 17 回	立ち上がり グループワーク 解析	実習	
第 18 回	立ち上がり まとめ	実習	
第 19 回	寝返り	講義	
第 20 回	寝返り	講義・実習	
第 21 回	起き上がり	講義	
第 22 回	起き上がり	講義・実習	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 23 回	試験	試験	
--------	----	----	--

評価方法	☒ 試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	動作分析 臨床活用講座 メディカルビュー
参考図書	臨床動作分析 医学書院 観察による歩行分析 医学書院 立ち上がり動作の分析
留意事項	実習時は動き易く、観察しやすい服装で受講してください。グループワークは各人が主体的に参加すること。講義内課題については、後日提出も可能。レポートは提出期限厳守

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法管理学Ⅰ	歌川 貴昭	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

理学療法管理学Ⅰでは、管理（マネジメント）の概要を始め、理学療法士が関わる組織やチームの役割と機能について学ぶ。また、日本の社会保障制度の概要や、リハビリテーション分野における収益の構造についての知識を理解することを目的とする。

◇到達目標

- ・ 理学療法士に必要な管理（マネジメント）の概要を説明できる。
- ・ 医療機関の分類や役割、組織の機能について説明できる。
- ・ リハビリテーションにかかわる専門職等の役割とチーム医療の重要性について説明できる。
- ・ 社会保障制度の概要を説明できる。
- ・ 医療保険制度や介護保険制度の概要を説明できる。
- ・ リハビリテーション分野における収益の構造を説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション 総論：管理（マネジメント）の概要	講義	
第 2 回	病院の分類と組織	講義	
第 3 回	専門職とチームケア	講義	
第 4 回	社会保障のしくみ	講義	
第 5 回	医療保険制度	講義	
第 6 回	介護保険制度	講義	
第 7 回	診療・介護報酬と収益構造	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80％ ）、■小テスト（ 20％ ）
------	-------------------------

教科書	・理学療法管理学（15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト）. 中山書店
参考図書	・理学療法管理学. 医歯薬出版 ・理学療法概論テキスト 改訂第3版（シンプル理学療法学シリーズ）. 南江堂
留意事項	講義前の予習（約 30 分）および講義後の復習（約 30 分）を行うこと。 理解が不十分な内容は、教務室へ質問に来てください。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法管理学Ⅱ	米田 文博	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

理学療法管理学Ⅱでは、理学療法士が行う管理について、日常業務や情報の管理、そして感染対策やリスク管理などを学ぶ。また、保健・医療・介護や福祉との連携や権利擁護や医療職及び理学療法士としての職業倫理、そして教育の管理体制についても講義を行う。

◇到達目標

- ・ 保健・医療・介護や福祉との連携の重要性を説明できる。
- ・ 理学療法士が関わる業務管理について説明できる。
- ・ 感染症対策やリスク管理について説明できる。
- ・ 教育の重要性及びその管理体制について説明できる。
- ・ 権利擁護や職業倫理について説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	保健・医療・介護や福祉との連携	講義	
第 2 回	業務管理	講義	
第 3 回	リスク管理	講義	
第 4 回	感染症管理	講義	
第 5 回	権利擁護と職業倫理	講義	
第 6 回	教育管理	講義	
第 7 回	理学療法士の政治・政策への関与	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 80％ ） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☒ 小テスト（ 20％ ） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（ ％）
------	---

教科書	・ 理学療法管理学第 2 版 （15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト）、中山書店 ・ 理学療法概論テキスト 改訂第 3 版 （シンプル理学療法学シリーズ）、南江堂
参考図書	・ リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン 第 2 版、診断と治療社
留意事項	・ 講義前・後に理学療法概論や理学療法管理学Ⅰで学んだ知識と照らし合わせる（約 30 分）。 ・ 予習・復習を行うこと（約 60 分）。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学総論	田中 研志	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

理学療法における評価は、根拠を持った治療を行うにあたり重要である。本講義では評価および検査・測定
の概念を理解し、医療面接、バイタルサイン検査の意義、目的、方法、技術について学ぶ。

◇到達目標

- ① 理学療法評価の意義、目的について説明できる
- ② 理学療法評価実施前のスクリーニング検査について説明できる。
- ③ 理学療法評価を実施する時期について説明できる。
- ④ 理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる。
- ⑤ 情報収集の方法や何故その情報を収集するのか等の説明ができる。
- ⑥ 医療従事者として身だしなみ、言葉遣いができる。
- ⑦ コミュニケーション・医療面接時のポイントを説明できる。
- ⑧ 適切なコミュニケーション技法を実施ことができる。
- ⑨ バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸数など）が確認・測定ができる。
- ⑩ リハビリテーションの中止基準を説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション、理学療法評価法総論「評価とは」	講義	田中
第 2 回	理学療法評価総論 情報収集	講義	田中
第 3 回	理学療法評価総論 情報収集	講義	田中
第 4 回	コミュニケーション技法・医療面接	講義・演習	田中
第 5 回	コミュニケーション技法・医療面接/バイタルサインの意味	講義・演習	田中
第 6 回	バイタルサイン 意識状態の評価/脈拍測定の意義と実践	講義・演習	田中
第 7 回	バイタルサイン 血圧測定の意義と実践	講義・演習	田中
第 8 回	バイタルサイン 経皮的酸素飽和度測定の意義と実践 リハビリテーションの中止基準	講義・演習	田中

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	・理学療法評価学 改訂第 6 版補訂版，金原出版株式会社 ・理学療法 検査測定ガイド 第 2 版，文光堂
参考図書	・標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第 4 版，医学書院 ・理学療法評価法 第 3 版，神稜文庫 ・臨床理学療法評価法，エンタプライズ ・15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学 I，中山書店
留意事項	・実技は計測しやすい格好をしてください（上下半袖半パンなど） ・事前学習・事後学習(予習・復習) 講義の内容、学修到達目標を確認し、各回の講義の事前に 90 分の予習と講義後 90 分の復習（含：実技練習）を行ってください。 ○総論については P13～P25

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

	○コミュニケーション技法については P27～P32 ○バイタルサインにおいては P41～P56 ○対象者の拍動が触知できる動脈を触診できるように、解剖学Ⅱおよび体表解剖学で学習した解剖学的位置関係や触診法を復習しておくこと。 ・この講義で学習することは臨床現場でも実施頻度の高い検査・測定項目であり必須です。 ・また講義時間のみでは十分な技術は身につかないため、放課後等利用し必ず感染対策を行った上で実技練習を行ってください。
--	---

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学 I	田中 研志	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

理学療法における評価は、根拠を持った治療を行うにあたり重要である。本講義では形態計測・関節可動域検査の意義、目的、方法を学び、実技を通して技術の修得をすることが目的となる。

◇到達目標

- ・形態計測の意義・目的・方法を理解し説明および実施することができる。
- ・関節可動域検査の意義・目的・方法を理解し説明および実施することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	形態計測 形態計測の意義目的～四肢長の意義目的・計測	講義・演習	田中
第 2 回	形態計測 四肢長の計測～周径の意義目的・計測	講義・演習	田中
第 3 回	形態計測 周径の計測	講義・演習	田中
第 4 回	形態計測 周径計測 関節可動域測定 意義目的～	講義・演習	田中
第 5 回	関節可動域測定 日常生活と関節可動域～肘関節・肩甲帯の計測	講義・演習	田中
第 6 回	関節可動域測定 肩甲帯の計測	講義・演習	田中
第 7 回	関節可動域測定 肩関節	講義・演習	田中
第 8 回	関節可動域測定 肩関節・前腕・手関節	講義・演習	田中
第 9 回	関節可動域測定 手関節・股関節	講義・演習	田中
第 10 回	関節可動域測定 股関節・膝関節	講義・演習	田中
第 11 回	関節可動域測定 足関節・足部	講義・演習	田中
第 12 回	関節可動域測定 頸部・胸腰部	講義・演習	田中
第 13 回	関節可動域測定 頸部・胸腰部	講義・演習	田中
第 14 回	関節可動域測定 手指・足趾	講義・演習	田中
第 15 回	OSCE 想定演習	講義・演習	田中

評価方法	☒ 試験 (65%) ☒ 実技試験 (25%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10%) ☐ レポート (%) ☐ その他 ()
------	--

教科書	・理学療法評価学 改訂第 6 版補訂版, 金原出版株式会社 ・理学療法 検査測定ガイド 第 3 版, 文光堂 ・実践リハ評価マニュアル 臨床 ROM 第 2 版, HUMAN PRESS
参考図書	・標準理学療法学 理学療法評価法 第 4 版, 医学書院 ・理学療法評価法 第 3 版, 神稜文庫 ・臨床理学療法評価法, エンタプライズ ・15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学 I, 中山書店
留意事項	・教科書 P70～P73 表 4-2 は確実に覚えるようにして下さい。 ・実技は計測しやすい格好をしてください（上下半袖半パンなど） ・事前学習・事後学習（予習・復習） 講義の学修内容、学修到達目標を確認し、事前学習として配布資料やテキストなどで 30 分予

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

	習をしてから講義に臨んでください。 事後学習として講義終了後に必ず 60 分の復習を行い、理解できたこと、できなかったことを整理、書き出しを行い、教員に質問してください。 形態計測および関節可動域検査は、対象者の骨を指標にして行うことが多いので、骨の触診ができるように、解剖学 I および体表解剖学で学習した解剖学的位置関係や触診法を復習しておいてください。 この講義で学習することは臨床現場でも実施頻度の高い検査・測定項目であり必須です。また講義時間のみでは十分な技術は身につかないため、放課後等利用し必ず感染対策を行った上で実技練習を行ってください。 ・小テストを疎かにしないようにし、返却しますので、ファイリングし、復習してください。
--	---

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学Ⅱ (MMT)	米田 文博	1	2	後期	必修 選択

◇講義概要

本講義は、検査と測定における徒手筋力検査法についての理論と技術の習得を目的としている。
検査法は Daniels らの方法を用いて行う。また、筋力テストを円滑に行えるようになるための、心構えやオリエンテーションの仕方など、検査者としての正しい態度を身につけることも目的としている。

◇到達目標

1. 理学療法評価における筋力検査、徒手筋力検査法について説明することができる。
2. 筋力検査と徒手筋力検査の手法(肢位、触知、抵抗、代償の制御)を説明することができる。
3. 健常者を対象として、正確に徒手筋力検査を実施することができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	徒手筋力検査法概論(教科書 p.1～22)	講義	
第 2 回	下肢の筋力テスト 股関節①(教科書 p.227～235)	実技	
第 3 回	下肢の筋力テスト 股関節②(教科書 p.236～253)	実技	
第 4 回	下肢の筋力テスト 股関節③(教科書 p.254～265)	実技	
第 5 回	下肢の筋力テスト 膝関節、足関節①(教科書 p.266～284)	実技	
第 6 回	下肢の筋力テスト 足関節②(教科書 p.285～294)	実技	
第 7 回	下肢の筋力テスト 母趾と足趾(教科書 p.295～306)	実技	
第 8 回	第 1 回 実技試験(下肢のみ)	試験	
第 9 回	第 1 回 実技試験(下肢のみ)	試験	
第 10 回	上肢の筋力テスト 肩甲骨①(教科書 p.93～107)	実技	
第 11 回	上肢の筋力テスト 肩甲骨②(教科書 p.108～119)	実技	
第 12 回	上肢の筋力テスト 肩関節①(教科書 p.120～129)	実技	
第 13 回	上肢の筋力テスト 肩関節②(教科書 p.130～141)	実技	
第 14 回	上肢の筋力テスト 肩関節③(教科書 p.142～153) 肘関節①(教科書 p.154～158)	実技	
第 15 回	上肢の筋力テスト 肘関節②、前腕(教科書 p.159～172)	実技	
第 16 回	上肢の筋力テスト 手関節、手指①(教科書 p.173～189)	実技	
第 17 回	上肢の筋力テスト 手指②(教科書 p.190～202) 母指①(教科書 p.203～208)	実技	
第 18 回	上肢の筋力テスト 母指②(教科書 p.209～221)	実技	
第 19 回	体幹筋のテスト(教科書 p.45～67)	実技	
第 20 回	頸筋のテスト(教科書 p.23～44)、表情筋のテスト(p.307～)	実技	
第 21 回	筆記試験	試験	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 22 回	第 2 回 実技試験(総合)	試験	
第 23 回	第 2 回 実技試験(総合)	試験	

評価方法	☒ 試験(60 %) ☒ 実技試験(下肢:6%、総合:34%) ☐ 演習評価(%) ☐ 小テスト(%) ☐ レポート(%)その他(%)
------	---

教科書	新・徒手筋力検査法(原著第 10 版). 協同医書出版社
参考図書	MMT 適切な検査肢位の設定と代償運動の制御. MEDICAL VIEW 新版 目でみる MMT. 医歯薬出版 PT・OT のための測定評価 MMT・頭部・頸部・上肢 第 2 版. 三輪書店 PT・OT のための測定評価 MMT・体幹・下肢 第 2 版. 三輪書店 KNOW THE BODY 筋・骨格の理解と触診のすべて. 医歯薬出版
留意事項	・ 講義の進捗状況によって、実技試験の実施日が前後することがあります。 ・ 実技試験の際は KC を着用の上、その他も実習時の服装規定に準じます。 ・ 講義前・後に解剖学 I や体表解剖学 I・II、運動学で学んだ知識と照らし合わせる(約 30 分)。 ・ 予習・復習を行うこと(約 60 分)。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学Ⅲ	田中 研志	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患や障害に対して適用される神経系の各検査と測定の意味・目的を理解する。実技を通して種々の機能障害を把握するための基本的な知識や技術を修得する。理学療法士が行う検査測定結果から臨床推論への基本的な流れが展開できる素地を養う。

◇到達目標

- ・ 理学療法評価における神経学的検査の意味・目的と評価方法について説明できる。
- ・ 神経系の異常による機能障害の程度と関連要因を把握するために必要となる基本的な評価項目を選択することができる。
- ・ 講義で学んだ神経学的検査を安全に実施することができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	担当
第 1 回	オリエンテーション,感覚検査(総論)①	講義	田中
第 2 回	感覚検査②:表在感覚	講義・実技	田中
第 3 回	感覚検査③:深部感覚	実技	田中
第 4 回	感覚検査④:複合感覚	実技	田中
第 5 回	反射検査①	講義	田中
第 6 回	反射検査②	実技	田中
第 7 回	筋緊張検査①	講義	田中
第 8 回	筋緊張検査②	実技	田中
第 9 回	片麻痺機能検査(総論)①	講義	田中
第 10 回	片麻痺機能検査② BRST:Ⅰ～Ⅱ	実技	田中
第 11 回	片麻痺機能検査③ BRST:Ⅲ	実技	田中
第 12 回	片麻痺機能検査④ BRST:Ⅳ～Ⅵ	実技	田中
第 13 回	平衡機能検査①	講義	田中
第 14 回	平衡機能検査②	実技	田中
第 15 回	バランス検査①	講義	田中
第 16 回	バランス検査②	実技	田中
第 17 回	協調性検査①	講義	田中
第 18 回	協調性検査②	実技	田中
第 19 回	脳神経検査①	試験	田中
第 20 回	脳神経検査②	試験	田中

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 21 回	実技試験	試験	複数教員
第 22 回	実技試験	試験	複数教員
第 23 回	脳神経検査③	講義・実技	田中
第 24 回	脳神経検査④	講義・実技	田中
第 25 回	高次脳機能検査①	講義・実技	田中
第 26 回	高次脳機能検査②	講義・実技	田中
第 27 回	高次脳機能検査③	講義・実技	田中
第 28 回	高次脳機能検査④	講義・実技	田中
第 29 回	失語症①(言語聴覚学士教員による)	講義・実技	ST 学科教員
第 30 回	失語症②(言語聴覚学士教員による)	講義・実技	ST 学科教員
第 31 回	定期試験	試験	田中

評価方法	☐ 試験 (%) ☒ 実技試験 (20%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (定期試験 80%)
------	--

教科書	・ 理学療法評価学 改訂第 6 版. 金原出版株式会社 ・ 理学療法 検査・測定ガイド 第 2 版. 文光堂 ・ ベッドサイドの神経の診かた 改訂第 18 版. 南山堂 ・ 病気がみえる vol.7 脳・神経 第 2 版. MEDIC MEDIA
参考図書	・ 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 第 3 版. MEDICAL VIEW ・ 実験医学別冊 改訂版 もっとよくわかる！脳神経科学. 羊土社 ・ 理学療法評価学 第 3 版 (標準理学療法学 専門分野). 医学書院 ・ 理学療法評価学テキスト 改訂第 2 版. 南江堂 ・ 理学療法評価学 (Crosslink 理学療法学テキスト). MEDICAL VIEW
留意事項	・ 脳・神経系の理解が必要となるため、必ず解剖学や生理学の復習をしておくこと。 ・ 実技があるため、Tシャツや短パンを常に準備しておくこと。 ・ 講義前・後に解剖学や生理学で学んだ知識と照らし合わせる(約 30 分)。 ・ 予習・復習を行うこと(約 60 分)。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学Ⅳ	中谷 充志 ・ 浦上 貴仁	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

呼吸器、循環器、代謝器疾患の特徴を深め、理学療法評価の知識、技術を深める

◇到達目標

呼吸・循環・代謝疾患の理学療法評価について、理解を深め、治療方法を選択出来る様になることを講義目標とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション（理学療法評価学Ⅳの進め方）	講義	中谷
第 2 回	呼吸器の解剖学・運動学・生理学	講義	中谷
第 3 回	呼吸器疾患の理学療法評価（問診、触診）	講義・演習	中谷
第 4 回	呼吸器疾患の理学療法評価（聴診、打診、生化学検査）	講義・演習	中谷
第 5 回	呼吸器疾患の生化学検査	講義	中谷
第 6 回	呼吸器疾患の病態（COPD）	講義	中谷
第 7 回	循環器の解剖学・生理学・運動学、心電図の基本	講義	中谷
第 8 回	循環器評価（概要）	講義・演習	中谷
第 9 回	循環器疾患評価（聴診、打診）	講義・演習	中谷
第 10 回	循環器疾患評価（運動耐応能力）	講義・演習	中谷
第 11 回	心電図の見方 1	講義	中谷
第 12 回	心電図の見方 2	講義	中谷
第 13 回	代謝器疾患の基礎（糖尿病）	講義	浦上
第 14 回	代謝器疾患の基礎（高血圧）	講義	浦上
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	・ 理学療法テキスト 15 レクチャーシリーズ呼吸／循環・代謝 ・ 心電図モニター ・ 適宜資料
参考図書	・ 呼吸療法テキスト ・ 呼吸リハビリテーション ・ フィジカルアセスメント徹底ガイド呼吸・循環
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学Ⅴ (画像評価学)	熊澤 浩一 ・ 米田 文博	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

画像所見から疾患を理解し、障害を理解することは重要である。理学療法計画の作成には、画像所見から疾患及び障害の現状を把握し、今後予測される機能的、能力的予後を考察できる読解能力が求められる。 本講義ではそれら能力の土台となる正常画像のみかたを習得する。また、部位別の傷害・疾患とその画像の関係を理解し、理学療法に関わる問題点や注意点についても理解する。

◇到達目標

1. 正常の画像の原理・みかた（X線・CT・MRI など）を理解し、説明できる。 2. 画像所見から傷害・疾患の部位、程度、障害像を想起できる。 3. 画像所見から問題点や理学療法実施上の留意点を理解できる。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	画像の原理（X線・CT・MRI・超音波など）について	講義	熊澤
第 2 回	骨・関節画像 基本のみかた	講義	熊澤
第 3 回	上肢の正常画像のみかたと運動器疾患	講義	熊澤
第 4 回	骨盤・下肢の正常画像のみかたと運動器疾患	講義	熊澤
第 5 回	脊柱の正常画像のみかたと運動器疾患	講義	熊澤
第 6 回	その他の運動器疾患・まとめ	講義	熊澤
第 7 回	中枢神経系の正常画像と解剖学的位置関係	講義	米田
第 8 回	脳卒中を中心とした神経疾患①	講義	米田
第 9 回	脳卒中を中心とした神経疾患②	講義	米田
第 10 回	中枢神経疾患（その他の疾患）	講義	米田
第 11 回	胸部・腹部の正常画像と解剖学的位置関係	講義	米田
第 12 回	胸部各論（呼吸器疾患）	講義	米田
第 13 回	胸部各論（循環器疾患）	講義	米田
第 14 回	腹部各論（肝胆膵・消化器疾患）	講義	米田
第 15 回	試験	講義	米田・熊澤

評価方法	■試験(80%)、■小テスト・課題(20%) 再試験の場合は試験のみで評価する
------	---

教科書	1. リハビリテーション医療に活かす画像のみかた. 南江堂 2. 病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版. MEDIC MEDIA
参考図書	・リハで読むべき運動器画像. MEDIA VIEW ・内部障害リハのための胸部・腹部画像 読影のすすめ. MEDICAL VIEW ・画像評価(標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻). 医学書院 ・脳画像(標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻). 医学書院 ・PT・OTのための画像診断マニュアル. 医学教育出版社
留意事項	・講義前・後に解剖学で学んだ知識と照らし合わせる(約 30 分)。 ・予習・復習を行うこと(約 60 分)。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
物理療法学総論	歌川 貴昭	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

物理療法の歴史・定義・目的と基本理念を理解し、生体への影響について学ぶ。

◇到達目標

①疼痛・筋緊張調節，関節可動域制限のしくみについて理解し，説明することができる。
②温熱療法の生体に与える影響について理解し，説明することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	・物理療法の歴史	講義	
第 2 回	・神経総論①（神経解剖・生理学）	講義	
第 3 回	・神経総論②（感覚受容器・伝導路）	講義	
第 4 回	・疼痛について	講義	
第 5 回	・筋緊張調節について・炎症について	講義	
第 6 回	・関節可動域制限について	講義	
第 7 回	・温熱療法の基礎	講義	
第 8 回	・試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	--

教科書	・PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第2版 ・講義資料（授業中に配布）
参考図書	・EBM 物理療法 原著第4版 渡部一郎訳 医歯薬出版株式会社 ・理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック 木村貞治編 文光堂 ・物理療法学 改訂第2版 松澤正 監 金原出版株式会社
留意事項	特になし

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
物理療法学各論	歌川 貴昭	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

物理療法が実践できるよう、背景となる理論・エビデンスについて知識を深め、また実際に治療機器に触れ、使用することでその方法を学ぶ。

◇到達目標

- ①各種物理療法の特徴，生体への影響，適応と禁忌について述べることができる。
②指導者の指導のもと，リスク管理しながら物理療法を実践することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	・温熱療法（マイクロウェーブ，超短波）	講義・演習	
第 2 回	・温熱療法（超音波）	講義・演習	
第 3 回	・寒冷療法 （寒冷療法概論，コールドパック・アイスバッグ・クリッカー）	講義	
第 4 回	・電気療法（電気療法概論）	講義	
第 5 回	・電気療法（NMES）	講義・演習	
第 6 回	・電気療法（TENS，干渉波）	講義・演習	
第 7 回	・牽引療法（牽引療法概論，頸椎牽引，腰椎牽引，徒手牽引）	講義・演習	
第 8 回	・圧迫療法（圧迫療法概論，包帯，リンパドレナージ）	講義・演習	
第 9 回	・水治療法（水治療法概論）	講義	
第 10 回	・水治療法（渦流・気泡浴，水中トレッドミル）	講義・演習	
第 11 回	・光線療法（光線療法概論，紫外線療法，赤外線療法）	講義・演習	
第 12 回	・振動刺激療法（振動刺激療法概論，局所振動刺激）	講義・演習	
第 13 回	・物理療法演習（温熱・寒冷・電気・牽引・光線・振動刺激）	演習	
第 14 回	・物理療法まとめ	講義・演習	
第 15 回	・試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	・PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第 2 版 ・講義資料（授業中に配布）
参考図書	・EBM 物理療法 原著第 4 版 渡部一郎訳 医歯薬出版株式会社 ・理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック 木村貞治編 文光堂 ・物理療法学 改訂第 2 版 松澤正 監 金原出版株式会社
留意事項	・各回に該当する解剖学、生理学を事前に復習しておくこと ・講義後にテキスト、講義資料を用い復習をおこなうこと

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
義肢学	石川 定	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

義肢の目的、基本構造、適応を講義し、切断者に適した義肢を選択できることを目指す。また義肢を適合させるために切断者におこなうリハビリテーションを講義する。

◇到達目標

- 1) 義肢の目的を理解する。
- 2) 義肢の基本構造を理解する。
- 3) 各種義肢の適応と長所・短所を理解する。
- 4) 切断のリハビリテーションを理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	切断総論（1）切断術	講義	
第2回	切断総論（2）断端管理	講義	
第3回	義肢総論（1）定義、分類	講義	
第4回	義肢総論（2）義手の分類、義足の分類	講義	
第5回	義足総論	講義	
第6回	大腿義足（1）種類	講義	
第7回	大腿義足（2）ベンチ・スタティックアライメント	講義	
第8回	大腿義足（3）ダイナミックアライメント	講義	
第9回	下腿義足（1）種類	講義	
第10回	下腿義足（2）アライメント	講義	
第11回	下肢切断の理学療法（1）装着前訓練	講義	
第12回	下肢切断の理学療法（2）装着訓練	講義	
第13回	股義足	講義	
第14回	膝義足、サイム義足	講義	
第15回	上肢切断の作業療法	講義	
第16回	定期試験	試験	

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（定期試験100%）
------	--

教科書	義肢装具ハンドブック 三上真弘ほか編 全日本病院出版会
参考図書	特になし
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
装具学	石川 定	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

装具の目的、基本構造、適応を講義し、疾患別に適した装具を選択できることを目指す。また装具の適合を助言することができる知識を講義し、臨床の準備をおこなう。

◇到達目標

- 1) 装具の目的を理解する。
- 2) 装具の基本構造を理解する。
- 3) 各種装具の適応と長所・短所を理解する。
- 4) 疾患別の装具を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	装具総論（1）はじめに		
第 2 回	装具総論（2）装具の分類		
第 3 回	短下肢装具（1）プラスチック製短下肢装具		
第 4 回	短下肢装具（2）金属製短下肢装具		
第 5 回	長下肢装具		
第 6 回	膝装具		
第 7 回	体幹装具（1）頸椎装具		
第 8 回	体幹装具（2）胸腰仙椎装具		
第 9 回	上肢装具（1）指・手・手関節装具		
第 10 回	上肢装具（2）肘・肩装具		
第 11 回	靴型装具		
第 12 回	片麻痺の装具（1）片麻痺の下肢装具		
第 13 回	片麻痺の装具（2）片麻痺の上肢装具		
第 14 回	脊髄損傷の装具		
第 15 回	小児整形外科疾患の装具		
第 16 回	定期試験	試験	

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（定期試験 100%）
------	---

教科書	義肢装具ハンドブック 三上真弘ほか編 全日本病院出版会
参考図書	特になし
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
日常生活活動学 I	長坂 俊昌	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

日常生活動作の概念を理解する。
日常生活動作の評価について理解する。
日常生活動作に関わる環境因子について理解する。

◇到達目標

日常生活活動の概念を説明し、生活機能における位置づけが説明できる
日常生活活動の評価が実施できる
日常生活活動における環境因子（人的、物理的）を理解し、指導に活用することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	ADL の位置づけ・概念・範囲	講義	
第 2 回	ICF と ADL（ADL 指導）ADL 評価と歴史・目的・実用性	講義	
第 3 回	時期別意義・さまざまな ADL 評価	講義	
第 4 回	B I 評価方法	講義	
第 5 回	F I M 評価方法	講義	
第 6 回	F I M 評価方法	講義	
第 7 回	基本動作概論	講義	
第 8 回	基本動作各論 各動作意義 介助法など	講義・実技	
第 9 回	リハ支援機器 概論	講義	
第 10 回	松葉杖指導	講義・実技	
第 11 回	歩行器・車椅子・自助具など	講義・実技	
第 12 回	複合動作指導 概論	講義	
第 13 回	各種杖の使用方法など	講義・実技	
第 14 回	車椅子基本構造 操作など	講義・実技	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	日常生活活動（ADL） 千住秀明 神陵文庫 脳卒中の機能評価 S I A S と F I M
参考図書	ADL とその周辺 伊藤利之 医学書院 理学療法ハンドブック 協同医書 など
留意事項	実技を行う場合は、ふさわしい服装で受講すること。予習復習に努めること。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
日常生活活動学Ⅱ	長坂 俊昌	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

疾患別日常生活活動について学習。講義・実技を行う。

◇到達目標

疾患別日常生活活動の概要について理解できる。
各疾患の評価方法・日常生活指導を習得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	片麻痺患者のADL・基本動作指導実技①	実技	
第 2 回	片麻痺患者のADL・基本動作指導実技②	実技・講義	
第 3 回	片麻痺患者のADL・セルフケア各論	実技	
第 4 回	大腿骨頸部骨折・人工股関節全置換術のADL	講義	
第 5 回	大腿骨頸部骨折・人工股関節全置換術のADL 実技指導	実技	
第 6 回	関節リウマチのADL 概論	講義	
第 7 回	関節リウマチのADL 概論	講義	
第 8 回	パーキンソン病患者のADL 概論	講義	
第 9 回	移乗介助実技指導	実技	
第 10 回	移乗介助実技指導	実技	
第 11 回	自助具論	講義	
第 12 回	片麻痺 ADL 臨床思考	講義	
第 13 回	脊髄損傷のADL 概論	講義	
第 14 回	脊髄損傷のADL 各論	講義	
第 15 回	試験	講義	
評価方法	■試験 (100%) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)		

教科書	日常生活活動 (ADL) 神陵文庫
参考図書	日常生活活動・生活環境学 医学書院 日常生活活動学テキスト 南江堂 ほか
留意事項	実技を行う場合は、ふさわしい服装で受講すること。予習復習に努めること

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動療法学	歌川 貴昭 ・ 熊澤 浩一	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

1. 解剖・運動・生理学、運動療法概論等の知識を復習・整理する。
2. 各種障害に対する基本的運動療法の意義・理論・実際を学ぶ。

◇到達目標

1. 運動療法に必要な解剖・運動・生理学、運動療法概論等の知識を使用することができる。
2. 各種障害に対する運動療法について、目的・方法・効果を医学的根拠に基づいて述べることができる。
3. 健常者に対して、基礎的な運動療法を実施することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション、運動療法の基礎・リスク管理	講義	熊澤
第 2 回	関節可動域制限に対する運動療法（目的、関節運動、病態と原因など）	講義	熊澤
第 3 回	姿勢障害に対する運動療法（姿勢の定義・評価）	講義・実習	歌川
第 4 回	姿勢障害に対する運動療法（体幹の安定性）	講義・実習	歌川
第 5 回	基本動作能力障害に対する運動療法（寝返り・起き上がり）	講義・実習	歌川
第 6 回	基本動作能力障害に対する運動療法（立ち上がり）	講義・実習	歌川
第 7 回	歩行障害に対する運動療法（歩行バイオメカニクス）	講義	歌川
第 8 回	歩行障害に対する運動療法（動作観察・分析）	講義・実習	歌川
第 9 回	持久力低下に対する運動療法（持久力の生理学的メカニズム）	講義	歌川
第 10 回	持久力低下に対する運動療法（評価・運動療法）	講義・実習	歌川
第 11 回	コンディショニング、全身調整運動（循環調節）	講義・実習	歌川
第 12 回	バランス障害に対する運動療法（バランス障害の定義・評価・運動療法）	講義・実習	歌川
第 13 回	協調性運動障害に対する運動療法（協調性障害の定義・障害理解）	講義	歌川
第 14 回	協調性運動障害に対する運動療法（重錘・弾性包帯・体操）	講義・実習	歌川
第 15 回	関節可動域制限に対する運動療法（評価のポイント、禁忌・注意点）	講義・実習	熊澤
第 16 回	関節可動域制限に対する運動療法（運動療法の種類と意義）	講義・実習	熊澤
第 17 回	関節可動域制限に対する運動療法（ストレッチング、二関節筋）	講義・実習	熊澤
第 18 回	関節可動域制限に対する運動療法（様々なストレッチング）	講義・実習	熊澤
第 19 回	筋力低下に対する運動療法（骨格筋の機能、筋力規定因子、原因、様式）	講義・実習	熊澤
第 20 回	筋力低下に対する運動療法（3 大原理、トレーニングの種類など）	講義・実習	熊澤
第 21 回	筋力低下に対する運動療法（OKC、CKC）	講義・実習	熊澤
第 22 回	筋力低下に対する運動療法（スクワット、スロートレーニングなど）	講義・実習	熊澤
第 23 回	運動連鎖と姿勢（分類と機能・下肢荷重連鎖）	講義・実習	熊澤

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 24 回	痛みに対する運動療法	講義	熊澤
第 25 回	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法	講義	歌川
第 26 回	感覚障害に対する運動療法	講義	歌川
第 27 回	腎機能障害に対する運動療法	講義・実習	歌川
第 28 回	火傷の運動療法	講義・実習	歌川
第 29 回	加齢による機能障害に対する運動療法（加齢による生理的变化）	講義	歌川
第 30 回	加齢による機能障害に対する運動療法（運動療法）	講義・実習	歌川

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（定期試験 80 %） ※再試験があった場合は、再試験のみで評価する
------	---

教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学 石川朗 編 中山書店
参考図書	運動療法学-障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明 編 文光堂 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 吉尾雅春 編 医学書院 運動療法学 柳澤健 編 金原出版 Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学 対馬栄輝 編 MEDICAL VIEW ID ストレッチング 鈴木重行 編 三輪書店 病気が見える vol.7 脳・神経 メディックメディア
留意事項	※ 各回の該当する運動療法学概論（運動療法学総論の教科書）事前に復習しておくこと（約 30 分） ※ 講義後にテキスト、講義資料を用い復習をおこなうこと（約 60 分） ※ 服装は学校指定ジャージ、半袖・短パン等で筋や関節が露出できるようにしてください

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法治療学Ⅰ 運動器疾患・スポーツ障害	【運動器疾患】 加登 優大・吉田 宗弘 【スポーツ障害】 福本 貴彦	2	2	後期	必修 選択

◇講義概要

【運動器疾患】 運動器疾患について学び、運動器疾患の病態について学習する。 運動器疾患の理学療法について、病態と関連させて、評価や治療について学習する。 講義が中心であるが、必要に応じて実技練習を実施し評価・治療について学習する。 【スポーツ障害】 スポーツ外傷・障害のメカニズムとその予防、理学療法評価と機能診断、アスレチックリハビリテーションと、理学療法、理学療法プログラムの実践、及びスポーツと健康保持に関して、本講義では理学療法士が担う分野について演習を行い、理論と実際について修得する。
--

◇到達目標

【運動器疾患】 整形外科疾患に対する理学療法を実施する上で、基本的な検査・測定及び治療等を理解する。 【スポーツ障害】 1. スポーツ障がいと基礎科目で得られた知識をリンクさせ理解できる。 2. スポーツに携わるスタッフの役割やマネジメントの知識も身につける。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	総論（整形外科疾患とは 創傷治癒の機序、骨折、脱臼）	講義	加登
第 2 回	総論（整形外科疾患とは 創傷治癒の機序、骨折、脱臼）	講義	加登
第 3 回	スポーツ理学療法について	講義	福本
第 4 回	股関節疾患（頸部骨折、変形性股関節症（THA）など）	講義	吉田
第 5 回	股関節疾患（頸部骨折、変形性股関節症（THA）など）	講義	吉田
第 6 回	創傷の処置と AED	講義	福本
第 7 回	PRICE 処置と準備運動・整理体操	講義	福本
第 8 回	末梢神経損傷（胸郭出口症候群、橈骨・尺骨・正中・坐骨神経麻痺など）	講義	加登
第 9 回	末梢神経損傷（胸郭出口症候群、橈骨・尺骨・正中・坐骨神経麻痺など）	講義	加登
第 10 回	スポーツの世界における活躍フィールド・アダプテッドスポーツ	講義	福本
第 11 回	股関節疾患（頸部骨折、変形性股関節症（THA）など）	講義	吉田
第 12 回	股関節疾患（先天性股関節脱臼、ペルテス病など）	講義	吉田
第 13 回	下肢のスポーツ外傷・障がい	講義	福本
第 14 回	膝関節疾患（十字靱帯損傷、骨折、オスグッドなど）	講義	加登
第 15 回	膝関節疾患（十字靱帯損傷、骨折、オスグッドなど）	講義	加登
第 16 回	上肢のスポーツ外傷・障がい	講義	福本
第 17 回	膝関節疾患（変形性膝関節症（TKA）、半月板損傷）	講義	吉田

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 18 回	膝関節疾患（変形性膝関節症(TKA)、半月板損傷）	講義	吉田
第 19 回	頸部・体幹のスポーツ外傷・障がい	講義	福本
第 20 回	足関節疾患（捻挫、靱帯損傷、足底板療法）	講義	加登
第 21 回	足関節疾患（捻挫、靱帯損傷、足底板療法）	講義	加登
第 22 回	脊椎疾患（変形性脊椎症、腰椎すべり症、脊柱管狭窄症、頸椎症、椎間板ヘルニアなど）	講義	吉田
第 23 回	脊椎疾患（変形性脊椎症、腰椎すべり症、脊柱管狭窄症、頸椎症、椎間板ヘルニアなど）	講義	吉田
第 24 回	肩関節疾患（肩関節周囲炎、上腕骨近位端骨折、肩関節脱臼、腱板損傷など）	講義	加登
第 25 回	肩関節疾患（肩関節周囲炎、上腕骨近位端骨折、肩関節脱臼、腱板損傷など）	講義	加登
第 26 回	脊髄損傷	講義	吉田
第 27 回	脊髄損傷	講義	吉田
第 28 回	その他の疾患（関節リウマチ、CRPS など）	講義	加登
第 29 回	その他の疾患（関節リウマチ、CRPS など）	講義	加登
第 30 回	テーピング概論	講義	福本
第 31 回	テーピングの基礎実習（テーピングの扱い方と巻き方）	演習	福本
第 32 回	足関節のスポーツ外傷・障がいに対するテーピング	演習	福本
第 33 回	膝関節のスポーツ外傷・障がいに対するテーピング	演習	福本
第 34 回	定期試験	試験	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ■その他（定期試験 運動器疾患 70%・スポーツ障害 30%）
------	---

教科書	【運動器疾患】 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第 3 版 南江堂 【スポーツ障害】 特になし
参考図書	【運動器疾患】 標準整形外科学 医学書院 整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹・下肢 MEDICAL VIEW 【スポーツ障害】 スポーツ外傷・障害ハンドブック 発生要因と予防戦略. 医学書院（2015/10/8） スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド. 文光堂；第 2 版（2015/05）
留意事項	予習・復習を行うこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法治療学Ⅱ 呼吸	石川 定	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

呼吸のメカニズム、疾患に応じた呼吸理学療法を講義する。また実技を体験してもらい、臨床における技術習得の礎としてもらう。

◇到達目標

- 1) 呼吸のメカニズムを理解する。
- 2) 呼吸理学療法の対象となる疾患を理解する。
- 3) 呼吸理学療法の目的を理解する。
- 4) 呼吸理学療法を行う上に最低限必要な知識と技術の習得に努める。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	呼吸生理学（1）換気		
第 2 回	呼吸生理学（2）拡散、循環		
第 3 回	呼吸生理学検査		
第 4 回	呼吸病学		
第 5 回	評価		
第 6 回	排痰法		
第 7 回	呼吸訓練		
第 8 回	排痰法実技		
第 9 回	リラクゼーション実技、呼吸訓練実技		
第 10 回	胸郭可動域運動実技		
第 11 回	呼吸介助法実技 両側下部胸郭呼吸介助法、両側上部胸郭呼吸介助法		
第 12 回	気道吸引実技		
第 13 回	呼吸筋トレーニング		
第 14 回	急性期呼吸理学療法		
第 15 回	呼吸運動療法		
第 16 回	定期試験	試験	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（定期試験 100%）
------	--

教科書	呼吸リハビリテーションの理論と技術 本間生夫 監修 メジカルビュー社
参考図書	特になし
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法治療学Ⅲ 循環・代謝	【循環】 下市 花香 【代謝】 細川 彰子 ・ 谷 侑宏	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

【循環】 理学療法を実施するうえで必須となる虚血性心疾患及び心不全の病態生理の理解に加えて、循環機能における各指標や運動時の正常な反応を把握したうえで、安全かつ効果的な運動処方を行うために理学療法士として備えておくべき知識に関する理解を深める。 【代謝】 糖尿病における病態や治療方針などの概要を学び、様々なリスクに対する知識を深める。
--

◇到達目標

【循環】 1. 循環機能の指標や生体反応で用いられる用語の意味を正確に理解する。 2. 循環器疾患患者への安全かつ効果的な運動処方について学び、説明できるようになる。 【代謝】 糖尿病に関する病態生理を理解する。 適切なリスク管理のもとに、理学療法士として運動療法を施行出来るようになることを目標とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	合併症、薬物療法	講義	谷
第 2 回	リスク管理、総論、症例提示等	講義・演習	谷
第 3 回	糖尿病における運動療法	講義	谷
第 4 回	糖尿病における運動療法、糖尿病神経障害の評価と治療	講義・演習	谷
第 5 回	糖尿病の病態・生理、検査データ	講義	細川
第 6 回	食事療法、心理、サルコペニア	講義	細川
第 7 回	循環器疾患の理学療法総論	講義	下市
第 8 回	循環器疾患の病態と治療（1）虚血性心疾患	講義	下市
第 9 回	循環器疾患の病態と治療（2）心不全	講義	下市
第 10 回	循環機能の指標（1）心拍出量、一回拍出量	講義	下市
第 11 回	循環機能の指標（2）心拍数、血圧	講義	下市
第 12 回	運動時の生体反応 モニタリング	講義	下市
第 13 回	運動負荷試験、運動療法の効果	講義	下市
第 14 回	心筋梗塞に対する心臓リハビリテーション（総論）	講義	下市
第 15 回	心筋梗塞に対する心臓リハビリテーション（急性期～維持期）	講義	下市
第 16 回	運動処方	講義	下市
第 17 回	定期試験	試験	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	□小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（定期試験 循環 70% 代謝 30%）

教科書	【循環】特になし 【代謝】糖尿病治療ガイド 2024 日本糖尿病学会編
参考図書	【循環】狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション改訂第 4 版 南江堂 循環器理学療法の理論と技術 メジカルビュー社 【代謝】日本糖尿病療養指導士受験ガイドブック
留意事項	【循環】講義の前には、前回に講義した部分の復習をしておいて下さい。また、講義後も講義の内容を理解するために当日の復習をしておいて下さい。 【代謝】予習・復習を行うこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法治療学Ⅳ 脳血管障害	米井 紀隆 ・ 山本 彩乃	2	2	後期	必修 選択

◇講義概要

脳血管障害リハビリテーションについて、医学的知識を学び、必要な評価について演習を通じて実感する。
評価結果をもとに統合と解釈の流れを学び、理学療法プログラムを立案し、治療アプローチの経験をし、実技を通じて変化を感じる。
また、社会的支援や在宅支援についても理解を深める

◇到達目標

脳血管障害の医学的知識を学び、疾患によつての症状を導き出せる。
脳血管障害の評価を学び、正確な結果を出せる演習を行い、結果をもとに統合と解釈できる。
脳血管障害の治療アプローチを体験し、身体変化を実感できる。

◇授業計画

回 数		講義形態	備考
第 1 回	脳卒中の基本知識①	講義	米井
第 2 回	脳卒中の基本知識②、小テスト	講義	米井
第 3 回	脳卒中の診断①	講義	米井
第 4 回	脳卒中の診断②、小テスト	演習	米井
第 5 回	脳卒中リハビリテーションにおける評価①	講義	山本
第 6 回	実技、小テスト	講義	山本
第 7 回	脳卒中リハビリテーションにおける評価②	講義	山本
第 8 回	実技、小テスト	演習	山本
第 9 回	脳卒中リハビリテーションにおける評価③	講義	山本
第 10 回	実技、小テスト	講義	山本
第 11 回	脳卒中の治療①	講義	米井
第 12 回	脳卒中の治療②	演習	米井
第 13 回	脳卒中リハビリテーションにおける評価④	講義	山本
第 14 回	実技、小テスト	講義	山本
第 15 回	脳卒中リハビリテーションの医療の基本①	講義	米井
第 16 回	脳卒中リハビリテーションの医療の基本②、小テスト	演習	米井
第 17 回	脳卒中リハビリテーションにおける評価⑤	講義	山本
第 18 回	実技、小テスト	演習	山本
第 19 回	脳卒中リハビリテーションの実際①	講義	米井
第 20 回	実技、小テスト	演習	米井
第 21 回	脳卒中リハビリテーションの実際②	講義	山本

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 22 回	実技、小テスト	演習	山本
第 23 回	脳卒中リハビリテーションの実際③	講義	米井
第 24 回	実技、小テスト	演習	米井
第 25 回	脳卒中リハビリテーションの実際④	講義	米井
第 26 回	実技、小テスト	演習	米井
第 27 回	脳卒中リハビリテーションの実際⑤	講義	米井
第 28 回	実技、小テスト	演習	米井
第 29 回	脳卒中リハビリテーションの実際⑥	講義	米井
第 30 回	最新リハビリテーション治療、小テスト	講義	米井
第 31 回	定期試験		

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ■その他（定期試験 100%）
------	---

教科書	脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで 医歯薬出版株式会社
参考図書	適宜紹介する
留意事項	実技がありますので、動きやすい服装で参加してください。 授業最後に小テストを行い、理解の確認を行います。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法治療学Ⅴ 難病・神経筋疾患	石川 定	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

難病、神経疾患の各疾患における特徴・予後、それに応じたリハビリテーション、理学療法の考え方を講義する。

◇到達目標

- 1) 難病、神経筋疾患を理解する。
- 2) 難病、神経筋疾患のリハビリテーションを理解する。
- 3) 難病、神経筋疾患の理学療法を理解する。
- 4) 難病、神経筋疾患の予後を理解し、障害者の心情に協調する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	総論	講義	
第 2 回	パーキンソン病（1）病態	講義	
第 3 回	パーキンソン病（2）症状	講義	
第 4 回	パーキンソン病（3）リハビリテーション	講義	
第 5 回	パーキンソン周辺疾患	講義	
第 6 回	小脳失調症（1）病態と症状	講義	
第 7 回	小脳失調症（2）リハビリテーション	講義	
第 8 回	脊髄小脳変性症	講義	
第 9 回	筋萎縮性側索硬化症	講義	
第 10 回	多発性硬化症（1）病態と症状	講義	
第 11 回	多発性硬化症（2）リハビリテーション	講義	
第 12 回	ギランバレー症候群	講義	
第 13 回	重症筋無力症	講義	
第 14 回	多発性筋炎	講義	
第 15 回	全身性エリテマトーデス	講義	
第 16 回	定期試験	試験	

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（定期試験 100%）
------	---

教科書	特になし
参考図書	特になし
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法治療学Ⅵ 小児	的場 知美 ・ 松岡 由佳	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

小児の正常発達を学び、小児疾患の病態について学習する。
小児疾患の理学療法について、病態と関連させて、評価や治療について学習する。

◇到達目標

小児の正常発達を理解した上で、小児疾患の病態・異常発達が理解できる。
小児を実際に見る機会がなくても、小児疾患の理学療法評価ができ、治療の目的が理解できる。
小児を学ぶことで、人の成長が小児から成人へと連続していることを理解し、小児分野に対して興味を持てる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	正常運動発達について	講義・実技	松岡由佳
第 2 回	正常運動発達について	講義・実技	松岡由佳
第 3 回	正常運動発達について	講義・実技	松岡由佳
第 4 回	姿勢反射の発達について	講義・実技	松岡由佳
第 5 回	評価・発達検査	講義・実技	松岡由佳
第 6 回	脳性麻痺 痙直型四肢麻痺	講義	的場知美
第 7 回	脳性麻痺 痙直型両麻痺	講義	的場知美
第 8 回	脳性麻痺 痙直型片麻痺	講義	的場知美
第 9 回	脳性麻痺 アテトーゼ	講義	的場知美
第 10 回	小児整形（二分脊椎・ペルテス、筋ジス）	講義	的場知美
第 11 回	発達障害	講義	的場知美
第 12 回	重症心身障害について	講義	的場知美
第 13 回	総論	講義	松岡由佳
第 14 回	総論	講義	的場知美
第 15 回	試験	試験	的場知美

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第 4 版 南江堂
参考図書	イラストでわかる 小児理学療法 上杉雅之監修 医歯薬出版
留意事項	講義終了時に確認テストを行います。 予習・復習を行うこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法総合演習 I	長坂俊昌・田守康彦・歌川貴昭・米田文博	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

講義・演習を通じて直接的、間接的情報収集の意義・目的を理解し、実施に必要な知識・技能・態度を習得する。

◇到達目標

・ 間接的、直接的情報収集の意義目的の理解、実施に必要な知識・技能・態度の習得 ・ 理学療法過程について理解できる。 ・ 評価計画が立案できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション 理学療法の職業理解について	講義	長坂
第 2 回	理学療法過程 疾患の調べ方について	演習	複数教員
第 3 回	疾患理解について	演習	長坂
第 4 回	間接的情報収集について	講義	複数教員
第 5 回	直接的情報収集ワーク①	講義	複数教員
第 6 回	直接的情報収集ワーク①	演習	複数教員
第 7 回	直接的情報収集ワーク②	講義	複数教員
第 8 回	直接的情報収集ワーク②	演習	複数教員
第 9 回	直接的情報収集ワーク③	講義	複数教員
第 10 回	直接的情報収集ワーク③	演習	複数教員
第 11 回	直接的情報収集ワーク④	講義	複数教員
第 12 回	直接的情報収集ワーク④	講義	複数教員
第 13 回	直接的情報収集ワーク⑤	講義	複数教員
第 14 回	直接的情報収集ワーク⑤	講義	複数教員
第 15 回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第 16 回	評価計画立案ワーク	演習	複数教員
第 17 回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第 18 回	評価計画立案ワーク	演習	複数教員
第 19 回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第 20 回	評価計画最終調整	演習	複数教員
第 21 回	5 学科合同演習 専門職連携	演習	長坂
第 22 回	5 学科合同演習 専門職連携	演習	長坂

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 23 回	評価実践	講義	複数教員
第 24 回	評価実践	演習	複数教員
第 25 回	評価実施後指導 情報整理	講義	複数教員
第 26 回	評価実施後指導 情報整理	演習	複数教員
第 27 回	OSCE 演習	講義	田守
第 28 回	OSCE 演習	演習	歌川
第 29 回	OSCE 演習	講義・演習	米田
第 30 回	見学実習Ⅱ直前ワーク	講義・演習	複数教員
第 31 回	定期試験	講義	長坂

評価方法	☐ 試験(%) ☐ 実技試験(%) ☒ 演習評価(30%) ☐ 小テスト(%) ☐ レポート(%) ☒ その他(定期試験 70%)
------	---

教科書	・ PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第 2 版補訂版. 金原出版 ・ 講義資料（講義中に配布する）
参考図書	・ 実践編 ケースで学ぶ 理学療法臨床思考 第 2 版. 文光堂 ・ 理学療法評価法学 改定第 6 版. 金原出版 ・ 図解 理学療法 検査・測定ガイド 第 2 版. 文光堂 ・ ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版. 南山堂 ・ 統合と解釈がよくわかる 実践! 理学療法評価学. 医歯薬出版 ・ ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－. 中央法規 ・ 理学療法ハンドブック 改訂第 4 版（第 1～4 巻）. 協同医書出版社 ・ 理学療法 臨床実習サポートブック. 医学書院
留意事項	・ 臨床実習を想定し、ケーシー・学校指定シューズを着用の上、身だしなみを整えて受講すること。 ・ 予習・復習を行うこと。
備考	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法総合演習Ⅱ	長坂 俊昌（他、複数教員）	2	2	後期	必修 選択

◇講義概要

理学療法過程における統合と解釈を理解し模擬症例において実践する講義。演習を通して成果物を作成し発表までを目標とする。演習は PBL(Project Based Learning)を実施する。

◇到達目標

- ・理学療法過程を理解することができる。
- ・疾患情報から機能障害の想起をすることができる。
- ・動作観察・分析を通して機能障害を想起することができる。
- ・統合と解釈の過程を理解することができる。
- ・自身の考えを成果物、発表を通して表現することができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	担当教員
第 1 回	オリエンテーション 症例提示	演習	長坂
第 2 回	PBL 初期仮説ワーク 疑問点抽出	演習	複数教員
第 3 回	初期仮説ワーク 初期障害構造と直接的・間接的情報収集	演習	長坂
第 4 回	追加情報 疑問点ワーク 障害構造ワーク 動作観察	演習	複数教員
第 5 回	臨床動作観察	演習	長坂
第 6 回	臨床動作観察	演習	複数教員
第 7 回	臨床動作観察	演習	長坂
第 8 回	臨床動作観察	演習	複数教員
第 9 回	臨床動作観察	演習	長坂
第 10 回	臨床動作観察	演習	複数教員
第 11 回	臨床動作観察	演習	長坂
第 12 回	臨床動作観察	演習	複数教員
第 13 回	臨床動作観察	演習	長坂
第 14 回	統合と解釈 思考過程	演習	複数教員
第 15 回	統合と解釈 参加制約	演習	長坂
第 16 回	統合と解釈 参加制約と活動制限	演習	複数教員
第 17 回	統合と解釈 活動制限	演習	長坂
第 18 回	統合と解釈 予動作観察結果	演習	複数教員
第 19 回	統合と解釈 疾患と機能障害	演習	長坂
第 20 回	統合と解釈 予後予測 二次的障害について	演習	複数教員
第 21 回	レポート レジューメ作成方法	演習	複数教員

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 22 回	レポート レジューメ作成方法	演習	複数教員
第 23 回	レジューメ作成 発表	演習	長坂
第 24 回	ジューメ作成 発表	演習	複数教員
第 25 回	PBL	演習	長坂
第 26 回	PBL	演習	複数教員
第 27 回	PBL 発表準備	演習	長坂
第 28 回	PBL 発表準備	演習	複数教員
第 29 回	PBL 発表	演習	長坂
第 30 回	PBL 発表まとめ	演習	複数教員
第 31 回	定期試験	試験	長坂

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ■演習評価 (40%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ■その他 (定期試験 60%)
------	--

教科書	・ 症例動画でわかる 理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト. 羊土社
参考図書	・ ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版. 南山堂 ・ 理学療法ハンドブック第 1～第 4 巻 改訂第 4 版. 協同医書出版 ・ 脳卒中. 医歯薬出版 ・ 標準整形外科学 第 14 版. 医学書院 ・ 内部障害理学療法学 (Crosslink 理学療法学テキスト). MEDICAL VIEW ・ 内部障害理学療法学 (PT・OT ビジュアルテキスト). 羊土社 ・ 国際生活機能分類・国際障害分類改訂版-. 中央法規 ・ 機能障害学入門. 神陵文庫
留意事項	・ 臨床実習を想定し、ケーシー・学校指定シューズを着用し、身だしなみを整えて受講すること。 ・ 予習・復習を行うこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法総合演習Ⅲ	田守 康彦（他複数教員）	3	1	前期	必修 選択

◇講義概要

1. 臨床総合実習に向けた知識を習得と理学療法治療手技の習熟を図る。
2. 理学療法臨床思考を習得し、問題解決能力を身につける。

◇到達目標

1. 理学療法士として必要な知識（専門基礎分野・評価学）を習得する。
2. ペーパーペーシェントの解決すべき問題点を列挙して統合と解釈を行い、必要な理学療法について述べるができる。

◇授業計画（臨床思考過程）

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	PBL①（症例提示 Q1 検討・発表）	講義	
第 2 回	PBL①（症例提示 Q1 検討・発表）	グループワーク	
第 3 回	OSCE 対策① 筋力増強運動 移乗介助	講義・演習	
第 4 回	PBL②（症例提示 Q1、Q2 検討・発表）	グループワーク	
第 5 回	OSCE 対策② 関節可動域運動 歩行介助	講義・演習	
第 6 回	PBL③（症例検討・発表）	グループワーク	
第 7 回	ウィメンズヘルスケアに対する理学療法 基礎	講義	
第 8 回	ウィメンズヘルスケアに対する理学療法 応用	講義	
第 9 回	PBL④（個人レジュメ作成、グループ発表準備）	グループワーク	
第 10 回	PBL④（個人レジュメ作成、グループ発表準備）	グループワーク	
第 11 回	PBL⑤（症例発表）	グループワーク	
第 12 回	PBL⑤（症例発表）	グループワーク	
第 13 回	癌に対する理学療法 基礎	講義	
第 14 回	癌に対する理学療法 応用	講義	
第 15 回	救急救命 基礎	演習	
第 16 回	救急救命 実技	演習	

評価方法	□定期試験（ ） □実技試験（ ） ■演習評価（課題 40%） □小テスト（ ） □レポート（ ） ■その他（個人課題 60%）
------	---

教科書	・ PT・OT のための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入編 第 2 版補訂版. 金原出版
参考図書	・ 理学療法学評価学 メジカルビュー社 ・ ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版. 南山堂 ・ 理学療法ハンドブック第 1～第 4 巻 改訂第 4 版. 協同医書出版

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

	・ 標準整形外科学 第 15 版. 医学書院 ・ 国際生活機能分類-国際障害分類改訂版-. 中央法規 ・ 機能障害学入門. 神陵文庫
留意事項	臨床総合実習に向けて意欲的に個人課題、グループ課題に取り組むこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法総合演習Ⅳ	(熊澤 浩一・田守 康彦・他複数教員)	3	10	通年 前期	必修 選択

◇講義概要

1. 臨床総合実習・国家試験に向けて必要な知識の整理・習得をおこなう。

◇到達目標

1. 理学療法士として必要な知識（専門基礎分野・評価学・一部疾患および理学療法学）を習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	運動学下肢①-1 股関節の運動学（骨・関節の構造、靱帯の走行、筋の作用・支配神経など）	講義	歌川
第 2 回	運動学下肢①-2 股関節の運動学、膝関節の運動学（骨・関節・半月板の構造、靱帯の走行、筋の作用・支配神経など）	講義	歌川
第 3 回	運動学総論① 骨学総論・各論（骨の肉眼的構造・顕微鏡的構造など）	講義	萬喜
第 4 回	運動学総論② 関節学総論（3つの連結、滑膜性連結の基本構造など）	講義	萬喜
第 5 回	運動学頭頸部・体幹① 概略柱の構造と背筋群	講義	熊澤
第 6 回	運動学頭頸部・体幹 筋群、呼吸運動、顎関節、咀嚼	講義	熊澤
第 7 回	運動学上肢①-1 概略、肩甲帯 骨・運動	講義	熊澤
第 8 回	運動学上肢①-2 肩甲帯 筋・神経	講義	熊澤
第 9 回	消化器① 概略 消化管の役割、構造、消化・吸収	講義	山本
第 10 回	消化器② 嚥下、消化液、排便機構	講義	山本
第 11 回	骨格筋 筋学総論（人体の筋肉・骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム・静止電位と活動電位など）	講義	萬喜
第 12 回	骨格筋 筋学総論（筋線維のタイプ・運動単位・神経支配比・長さ-張力曲線など）	講義	萬喜
第 13 回	オリジナル①	講義	田守/米田
第 14 回	評価学Ⅰ① 国家試験点数配分、バイタルサイン、形態計測、関節可動域測定の概要説明	講義	田中
第 15 回	評価学Ⅰ② バイタルサイン、形態計測、関節可動域測定の問題解説	講義	田中
第 16 回	中枢神経①-1 概略・大脳皮質・辺縁系	講義	原田
第 17 回	中枢神経①-2 小脳・上行性伝導路・脳動脈	講義	原田
第 18 回	運動学下肢②-1 足関節の運動学（骨・関節の構造、靱帯の走行、筋の作用・支配神経など）	講義	歌川
第 19 回	運動学下肢②-2 足関節の運動学（アーチの構成要素）	講義	歌川
第 20 回	呼吸器①-1 呼吸器系の構造：上気道・下気道・肺の構造など	講義	萬喜
第 21 回	呼吸器①-2 呼吸器系の調節：呼吸調節・酸塩基平衡など	講義	萬喜
第 22 回	運動学上肢②-1 肩甲上腕関節	講義	熊澤

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 23 回	運動学上肢②-2 肘関節	講義	熊澤
第 24 回	リハビリテーション医学① リスク管理、標準予防策、気管吸引	講義	米田
第 25 回	オリジナル②	講義	熊澤
第 26 回	泌尿器① 腎臓の機能・構造・ホルモン	講義	山本
第 27 回	泌尿器② 排尿・排便、pH の調整	講義	山本
第 28 回	末梢神経① 構造と機能	講義	中井
第 29 回	末梢神経② 脳神経、自律神経、腕神経叢や神経走行	講義	中井
第 30 回	内分泌① 構造と視床下部・下垂体のホルモン	講義	後藤
第 31 回	内分泌① 甲状腺・副甲状腺・その他のホルモン	講義	後藤
第 32 回	代謝① 基礎代謝、代謝の基本	講義	後藤
第 33 回	オリジナル③	講義	田守/米田
第 34 回	呼吸器②-1 肺気量分画、フローボリューム曲線	講義	萬喜
第 35 回	呼吸器②-2 呼吸運動：安静・強制吸気および呼気時に働く筋肉など	講義	萬喜
第 36 回	整形画像①脊柱・肩・肘・手関節	講義	田守
第 37 回	整形画像②骨盤・股・膝・足関節	講義	田守
第 38 回	リハビリテーション医学②-1 長期臥床による影響、加齢による変化、高齢期の特徴	講義	米田
第 39 回	リハビリテーション医学②-2 感染症、薬物療法	講義	米田
第 40 回	CVA（中枢神経障害）①-1 疾患学	講義	山本
第 41 回	CVA（中枢神経障害）①-2 高次脳機能障害、装具	講義	山本
第 42 回	中枢神経③ 下行性伝導路、脳波	講義	原田
第 43 回	感覚① 感覚受容器、視覚、聴覚、前庭器	講義	原田
第 44 回	循環器①-1 循環器系の構造：心臓・動脈・静脈・リンパについて	講義	萬喜
第 45 回	循環器①-2 循環器系の調節：血圧調節・運動時の変化・刺激伝導系など	講義	萬喜
第 46 回	姿勢・動作分析①-1 立位姿勢と歩行の基礎	講義	熊澤
第 47 回	姿勢・動作分析①-2 床反力、高齢者の歩行	講義	熊澤
第 48 回	循環器②-1 心電図の基礎・心周期など	講義	萬喜
第 49 回	循環器②-2 血液成分・血液凝固など	講義	萬喜
第 50 回	オリジナル④	講義	田守/米田
第 51 回	感覚② まとめ、問題	講義	原田
第 52 回	感覚③ 疾患学	講義	原田
第 53 回	病理学①-1 免疫・炎症	講義	中井
第 54 回	病理学①-2 浮腫・感染症・各種疾患	講義	中井

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 55 回	姿勢・動作分析② 異常歩行、立ち上がりなどその他動作	講義	熊澤
第 56 回	代謝② 糖尿病と酸塩基平衡	講義	後藤
第 57 回	代謝③ 高血圧症、痛風などその他代謝性疾患	講義	後藤
第 58 回	中枢画像① 画像のみかた（総論）	講義	米田
第 59 回	中枢画像② 脳卒中、頭部外傷、その他疾患の脳画像	講義	米田
第 60 回	オリジナル⑤	講義	熊澤
第 61 回	心電図①-1 心電図の仕組み、波形の意味	講義	熊澤
第 62 回	心電図①-2 頻脈性心疾患	講義	熊澤
第 63 回	評価Ⅱ-① 徒手筋力検査法の総論	講義	米田
第 64 回	評価Ⅱ-② 徒手筋力検査法の各論（主動作筋、肢位、固定・抵抗部位、代償など）	講義	米田
第 65 回	運動学習① 運動スキルと記憶、学習の仕組み	講義	熊澤
第 66 回	運動学習② フィードバック、練習法	講義	熊澤
第 67 回	CVA（中枢神経障害）②-1 評価と介入	講義	山本
第 68 回	CVA（中枢神経障害）②-2 装具療法	講義	山本
第 69 回	運動学上肢③-1 手関節・手指	講義	熊澤
第 70 回	オリジナル⑥	講義	熊澤
第 71 回	栄養学①ビタミン ビタミンの代謝と疾患	講義	熊澤
第 72 回	心電図②-1 徐脈性心疾患	講義	熊澤
第 73 回	心電図②-2 虚血性心疾患	講義	熊澤
第 74 回	発生・生殖器 細胞構造・月経など	講義	萬喜
第 75 回	病理学②-1 創傷治癒、腫瘍（癌・肉腫・転移）	講義	中井
第 76 回	病理学②-2 腫瘍（脳）、ボツリヌス毒素	講義	中井
第 77 回	オリジナル⑦	講義	田守/米田
第 78 回	病理学 癌 疾患の整理とまとめ①	講義	歌川
第 79 回	病理学 癌 疾患の整理とまとめ②	講義	歌川

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

評価方法	■定期試験（ 100% ） □実技試験（ %） □演習評価（ %） 中間試験①②③ 380 点満点分の 100 点 終講試験 380 点満点分の 280 点 再試験となった場合は、中間試験の点数は考慮しない
教科書	クエスチョンバンク（共通・専門問題）、メディックメディア、スモールステップ資料 講義資料 使用アプリケーション：リハドリル
参考図書	国試の達人シリーズ, IPEC 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイントシリーズ, 医歯薬出版 他
留意事項	該当範囲の教科書（1～2 年次の教科書も）での予習・復習をおこなうこと。

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法総合演習Ⅳ	(熊澤 浩一・田守 康彦・他複数教員)	3	10	通年 後期	必修 選択

◇講義概要

1. 国家試験にむけて、知識を整理、向上させるよう講義する。
2. 理学療法士として必要な知識を活用して、問題解決能力を身につけるよう支援する。

◇到達目標

1. 国家試験に向けて、理学療法士として必要な専門的知識を習得し知識を身につける。
2. 医学的知識をもとに、臨床問題を解くことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	運動療法①-1 筋力増強 可動域運動	講義	熊澤
第2回	運動療法①-2 循環の評価と理学療法	講義	熊澤
第3回	整形外科①-1 小児の骨折・疾患と理学療法	講義	熊澤
第4回	整形外科①-2 絞扼性神経障害と理学療法、筋短縮テスト	講義	熊澤
第5回	神経・筋疾患①-1 脳血管障害	講義	中井
第6回	神経・筋疾患①-2 パーキンソン病・ギランバレー症候群	講義	中井
第7回	薬理学①-1 疾患と薬理	講義	熊澤
第8回	薬理学①-2 薬理とリハビリテーションの注意点	講義	熊澤
第9回	内科学① 疾患の成因	講義	後藤
第10回	内科学② 疾患に対する一般的治療	講義	後藤
第11回	臨床心理学①-1 防衛機制	講義	池田
第12回	臨床心理学①-2 障害受容、発達	講義	池田
第13回	臨床心理学②-1 心理検査 記憶	講義	池田
第14回	臨床心理学②-2 記憶	講義	池田
第15回	CVA③-1 評価学	講義	山本
第16回	CVA③-2 治療学	講義	山本
第17回	Original 問題①	講義	熊澤
第18回	人間発達学①-1 運動発達	講義	中谷
第19回	人間発達学①-2 精神発達	講義	中谷
第20回	栄養学②-1 栄養と疾患の関係	講義	熊澤
第21回	栄養学②-2 栄養障害とリハビリテーション	講義	熊澤
第22回	整形外科疾患①-1 骨折	講義	原田
第23回	整形外科疾患①-2 上肢	講義	原田
第24回	整形外科疾患②-1 脊柱・肩・肘・手関節の疾患と理学療法	講義	田守
第25回	整形外科疾患②-2 骨盤・股・膝・足関節の疾患と理学療法	講義	田守
第26回	腎臓障害とリハビリテーション	講義	歌川

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 27 回	精神医学③-1 薬物療法	講義	熊澤
第 28 回	精神医学③-2 ストレス関連障害	講義	熊澤
第 29 回	Original 問題②	講義	田守
第 30 回	神経・筋疾患②-1 筋ジストロフィー	講義	中井
第 31 回	神経・筋疾患②-2 重症筋無力症、脊髄小脳変性症	講義	中井
第 32 回	精神医学①-1 統合失調症	講義	石川
第 33 回	精神医学①-2 気分障害	講義	石川
第 34 回	内部障害①-1 心筋梗塞 狭心性	講義	後藤
第 35 回	内部障害①-2 心不全の評価	講義	後藤
第 36 回	内部障害①-3 ファロー四徴症 大動脈瘤 閉塞性動脈硬化症	講義	後藤
第 37 回	脊髄損傷①-1 疾患学	講義	長坂
第 38 回	脊髄損傷①-2ADL	講義	長坂
第 39 回	Original 問題③	講義	田守
第 40 回	義肢学①大腿義足 下腿義足	講義	山本
第 41 回	義肢学②義足の異常歩行とその対応	講義	山本
第 42 回	人間発達学②-1 言語・社会性の発達	講義	中谷
第 43 回	人間発達学②-2 反射・反応	講義	中谷
第 44 回	研究・統計①-1 研究法	講義	熊澤
第 45 回	研究・統計①-2 統計の基礎と尺度	講義	熊澤
第 46 回	整形外科疾患②-1 体幹	講義	原田
第 47 回	整形外科疾患②-2 下肢	講義	原田
第 48 回	中枢画像②-1 脳梗塞	講義	米田
第 49 回	中枢画像②-2 脳出血、頭部外傷	講義	米田
第 50 回	脊髄損傷②-1 理学療法	講義	長坂
第 51 回	脊髄損傷②-2 装具	講義	長坂
第 52 回	精神医学②-1 てんかん 発達障害	講義	石川
第 53 回	精神医学②-2 パーソナリティ障害 依存症	講義	石川
第 54 回	装具学①-1 下肢装具	講義	山本
第 55 回	装具学①-2 上肢・体幹装具	講義	山本
第 56 回	神経・筋③-1 末梢神経損傷	講義	中井
第 57 回	神経・筋③-2 筋疾患	講義	中井
第 58 回	内部障害②-1 自己免疫疾患	講義	後藤
第 59 回	内部障害②-2 代謝性疾患	講義	後藤
第 60 回	Original 問題④	講義	田守
第 61 回	ADL①-1 評価方法	講義	長坂
第 62 回	ADL①-2 介入・環境調整	講義	長坂

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 63 回	理学療法・リハビリテーション概論① 法律・管理・運営	講義	米田
第 64 回	理学療法・リハビリテーション概論② 一般的評価	講義	米田
第 65 回	Original 問題⑤	講義	田守
第 66 回	脳性麻痺① 疾患学	講義	中谷
第 67 回	脳性麻痺② リハビリテーション	演習	中谷
第 68 回	物理療法①-1 光線療法	講義	歌川
第 69 回	物理療法①-2 電気刺激療法	講義	歌川
第 70 回	整形外科疾患③-1 整形外科的テスト	講義	原田
第 71 回	整形外科疾患③-2 理学療法	講義	原田
第 72 回	評価学Ⅰ②-1 全身状態、局所所見、形態計測	講義	田中
第 73 回	評価学Ⅰ②-2 関節可動域	講義	田中
第 74 回	地域理学療法①法・制度と地域社会、訪問理学療法、 バリアフリーとユニバーサルデザイン	講義	米田
第 75 回	物理療法学②-1 牽引療法・水治療法	講義	歌川
第 76 回	物理療法学②-2 温熱・寒冷療法	講義	歌川
第 77 回	Original 問題⑥	講義	田守
第 78 回	力学①-1 ベクトルとてこ	講義	萬喜
第 79 回	力学②-2 モーメントと関節反力	講義	萬喜
第 80 回	内部障害③-1 消化器疾患の症候の機序と理学療法	講義	後藤
第 81 回	内部障害③-2 循環器系の理学療法	講義	後藤
第 82 回	内部障害③-3 呼吸器疾患・呼吸器系の理学療法	講義	後藤
第 83 回	実地解説（臨床問題）①	講義	歌川
第 84 回	実地解説（臨床問題）②（	講義	歌川
第 85 回	評価学Ⅱ② 上肢・体幹	講義	米田
第 86 回	評価学Ⅱ① 下肢	講義	米田
第 87 回	評価その他①-1 持久力・平衡機能	講義	田守
第 88 回	評価その他①-2 中枢神経障害	講義	田守
第 89 回	実地解説（臨床問題）③	講義	田守
第 90 回	実地解説（臨床問題）④	講義	田守
第 91 回	研究・統計②-1 感度・特異度、検定の種類	講義	熊澤
第 92 回	研究・統計②-2 尤度比、演習	講義	熊澤
第 93 回	整形外科疾患④-1 リウマチ・熱傷	講義	原田
第 94 回	整形外科疾患④-2 スポーツ障害	講義	原田
第 95 回	虚弱・癌 フレイル、サルコペニア、癌領域の理学療法	講義	歌川
第 96 回	整形要点②-1 整形外科的テスト：脊柱	講義	熊澤
第 97 回	整形要点②-2 整形外科的テスト：四肢	講義	熊澤

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 98 回	内部障害特講① 内分泌疾患	講義	歌川
第 99 回	内部障害特講② 代謝疾患	講義	歌川
第 100 回	Original 問題⑦	講義	田守

評価方法	■定期試験（ 100% ） □実技試験（ %） □演習評価（ %） 中間試験①②③ 380 点満点分の 100 点 終講試験 380 点満点分の 280 点 再試験となった場合は、中間試験の点数は考慮しない
------	---

教科書	クエスチョンバンク（共通・専門問題）、メディックメディア、 スモールステップ資料 講義資料 使用アプリケーション：リハドリル
参考図書	国試の達人シリーズ, IPEC 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイントシリーズ, 医歯薬出版 他
留意事項	該当範囲の教科書（1～2 年次の教科書も）での予習・復習をおこなうこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域理学療法学	中村 貴信 ・ 辻 淳樹	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

少子高齢化が進む時代における地域包括ケアシステムの深化を軸として、地域理学療法の理解を深める。維持期・生活期リハビリテーションでの地域理学療法を疾患や事例を通してアプローチ方法などを学ぶ。「予防理学療法」について具体的に提案できるようにグループワークを通じて学習する。

◇到達目標

- ・理学療法士の観点から地域包括ケアシステムについて理解する。
- ・地域理学療法に関わる介護保険サービスを理解し、説明できるようになる。
- ・在宅における多職種連携について理解ができる。
- ・予防理学療法を中心とした地域リハビリテーション活動について説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	地域リハビリテーション、地域理学療法（総論）	講義	（中村）
第 2 回	地域・在宅での理学療法士の役割	講義	（中村）
第 3 回	地域包括ケアシステムにおける理学療法	講義	（中村）
第 4 回	地域理学療法における多職種との連携、協働	講義・演習	（中村）
第 5 回	介護予防の総論、個人・地域での取り組み	講義	（辻）
第 6 回	疾患や事例を通じた各論	講義	（辻）
第 7 回	環境整備とは、住宅改修について	講義	（辻）
第 8 回	福祉用具について	講義	（辻）
第 9 回	定期試験	試験	

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 10 %） ■小テスト（ 10 %） □レポート（ %） ■その他（ 定期試験 80 %）
------	--

教科書	地域理学療法学（医学書院）
参考図書	特になし
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域リハビリテーション学	浦上 貴仁	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

地域リハビリテーションの歴史、概念、主要な事柄を理解する。
また、現在の日本における諸制度やリハビリテーションによる支援の在り方について学ぶ。

◇到達目標

地域リハビリテーションの定義や諸制度など、関連する事柄（老人保健法、介護保険法、障害者総合支援法、地域包括ケアシステム、介護予防）について理解し説明ができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	地域リハビリテーションの概念	講義	
第 2 回	地域リハビリテーションの歴史、障害者総合支援法	講義	
第 3 回	介護保険サービスの概要	講義	
第 4 回	地域リハビリテーションにおける関連職種との連携	講義	
第 5 回	地域包括ケアについて	講義	
第 6 回	介護予防とは	講義	
第 7 回	まとめ	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	・地域リハビリテーション学テキスト（南江堂） ・適宜資料
参考図書	・PT・OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学（羊土社）
留意事項	予習・復習を行うこと

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生活環境学 I	田守 康彦	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

わが国は世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入している。高齢者や障害者に対する医療・福祉・建築について体系的に幅広く理解し、住宅改修や福祉用具の活用についても各種の専門家と連携をとりながら理学療法士として実践に活かせる知識を修得する。

◇到達目標

- ①高齢者や障害者における福祉・住環境の基本的な知識を修得し説明できる。
- ②各専門職と連携して福祉・住環境に対して具体的な提案や解決をする方法の理解を深める。
- ③福祉住環境コーディネーター検定試験(2 級)に出題される問題に繋がる知識を理解し修得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	高齢者を取り巻く社会状況と住環境	講義	
第 2 回	障害者を取り巻く社会状況と住環境	講義	
第 3 回	健康・障害・加齢とリハビリテーション (1)	講義	
第 4 回	健康・障害・加齢とリハビリテーション (2)	講義	
第 5 回	高齢者・障害者の生活機能と関連する傷病	講義	
第 6 回	福祉住環境整備とケアマネジメント	講義	
第 7 回	福祉住環境整備の進め方	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト(改訂 6 版) 東京商工会議所
参考図書	絶対決める! 福祉住環境コーディネーター2 級 完成問題集 L&L 総合研究所 福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級これだけ! 一問一答集 自由国民社
留意事項	テキストの確認中心に予習 90 分、問題への取組含め復習 90 分を行うこと。 講義毎の内容の理解に努め意欲的に取り組むこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生活環境学Ⅱ	田守 康彦	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

わが国は世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入している。高齢者や障害者に対する医療・福祉・建築について体系的に幅広く理解し、住宅改修や福祉用具の活用についても各種の専門家と連携をとりながら理学療法士として実践に活かせる知識を修得する。

◇到達目標

- ①福祉・住環境整備に対する基本的な知識を修得し説明できる。
- ②各専門職と連携して福祉・住環境に対して具体的な提案や解決をする方法の理解を深める。
- ③福祉住環境コーディネーター検定試験(2級)に出題される問題に繋がる知識を理解、修得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	福祉住環境整備の共通基本技術 (1)	講義	
第 2 回	福祉住環境整備の共通基本技術 (2)	講義	
第 3 回	生活行為別福祉住環境整備の手法	講義	
第 4 回	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	講義	
第 5 回	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識	講義	
第 6 回	在宅生活における福祉用具の活用	講義	
第 7 回	福祉住環境コーディネーター検定試験への確認	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト(改訂 6 版) 東京商工会議所
参考図書	絶対決める! 福祉住環境コーディネーター2 級 完成問題集 L&L 総合研究所 福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級これだけ! 一問一答集 自由国民社
留意事項	テキストの確認中心に予習 90 分、問題への取組含め復習 90 分を行うこと。 講義毎の内容の理解に努め意欲的に取り組むこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床見学実習 I	教員全員	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

見学実習 I は、医療、福祉、地域における理学療法業務を見学し、その領域における理学療法士の役割を理解する実習である。また、その領域の専門職連携（多職種連携）における理学療法士の役割を理解し重要性を認識する実習である。見学実習と地域見学実習で構成される。

①見学実習

病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなど、施設における院内・施設内業務を主に見学する実習。

②地域見学実習

通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションなどを見学し、地域包括ケアシステムにおける業務を見学する実習。

◇到達目標

- ① 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築するための、態度、言動、考えを身に着けることが出来る。
- ② 職場における理学療法士の役割と責任について理解する。また、自身がその一員であると自覚し、行動することができる。
- ③ 実習施設における理学療法士の役割・業務について、指導を受けた内容を自身の言葉で説明することが出来る。
- ④ 特に地域見学実習においては、地域包括ケアシステムにおける理学療法の展開について理解し、ケアプランにおいて理学療法に求められる役割について理解する。
- ⑤ 実習施設における専門職連携（多職種連携）について、指導を受けた内容を自身の言葉で説明することが出来る。
- ⑥ 見学実習においては、リハビリテーションチームとしての専門職連携について理解する。地域見学実習においては地域包括ケアシステムに関与する関連専門職との連携について理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
1 週間	①見学実習 各施設における理学療法の業務およびチームにおいて求められる理学療法の展開について見学する。 臨床実習指導者は学生に積極的に業務の要点、見学の視点を教授し、学生の理解を促す。また、専門職連携（多職種連携）について、その実際を見学、あるいは内容について教授される。 ②地域見学実習 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを見学し、地域包括ケアシステムにおける理学療法の展開、ケアプランにおいて理学療法に求められる役割について理解する。 臨床実習指導者は専門職連携（多職種連携）について、その実際を見学、あるいは内容について教授する。特に地域包括ケアシステムにおける、理学療法士の役割について教授される。	実習	

評価方法	□定期試験（ %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	□レポート（ %）	■その他（実習地評価 70%学内評価 30%）

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

教科書	規定しない
参考図書	規定しない
留意事項	【評価について】 実習地評価は評価表を元に実習地で行われる。学内評価は下記の通りとする。 ＜ポートフォリオ評価＞学内評価の 3 分の 1 とする ・ デイリーノート内容 ・ 学校提出課題 ＜学内総合評価＞学内評価の 3 分の 2 とする 社会的技能 意欲など 【その他】 ・ 実習開始前に「臨床見学実習Ⅰ要項」を熟読すること。 ・ 日々より敬語、丁寧語を使用し、良好な人間関係が気づけるようにしておくこと。 ・ 実習 1 週間前には直接電話連絡し、集合時間などの打ち合わせをしておくこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床見学実習Ⅱ	教員全員	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

見学実習Ⅱは、医療、福祉、地域における理学療法業務を見学し、その領域における理学療法士の役割を理解する実習である。また、その領域の専門職連携(多職種連携)における理学療法士の役割を理解し、その重要性を認識する実習である。見学実習と地域見学実習で構成される。

①見学実習

病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなど、施設における院内・施設内業務を主に見学する実習である。

②地域見学実習

通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションなどを見学し、地域包括ケアシステムにおける業務を見学する実習である。

◇到達目標

- ① 対象者を尊重し、共感的態度をもって、良好な人間関係を構築するための、態度を身につけることができる。
- ② 職場における理学療法士の役割と責任について理解する。また、自らもその一員であると自覚し、行動することができる。
- ③ 実習施設における理学療法士の役割や業務について、指導を受けた内容を自らの言葉で述べることができる。
- ④ 特に地域見学実習においては、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の関わり方を理解し、ケアプランにおいて理学療法に求められる役割について述べることができる。
- ⑤ 実習施設における専門職連携(多職種連携)について、指導を受けた内容を自らの言葉で述べることができる。
- ⑥ 見学実習においては、リハビリテーション・チームとしての専門職連携について述べることができる。地域見学実習において、は地域包括ケアシステムに関与する関連専門職との連携について述べることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
1 週間	①見学実習 各施設における理学療法の業務およびチームにおいて求められる理学療法の展開について見学する。 臨床実習指導者は学生に積極的に業務の要点、見学の視点を教授し、学生の理解を促す。また、専門職連携(多職種連携)について、その実際を見学、あるいは内容について教授される。 ②地域見学実習 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを見学し、地域包括ケアシステムにおける理学療法の展開、ケアプランにおいて理学療法に求められる役割を教授される。 臨床実習指導者は専門職連携(多職種連携)について、その実際を見学、あるいは内容について教授される。特に地域包括ケアシステムにおける、理学療法士の役割について教授される。	実習	

評価方法	☐ 定期試験(%) ☐ 実技試験(%) ☐ 演習評価(%) ☐ 小テスト(%) ☐ レポート(%) ■その他(実習地評価 70%, 学内評価 30%)
教科書	規定しない。
参考図書	規定しない。

留意事項	【評価について】 実習地評価は評価表を元に実習地で行われる。学内評価は下記の通りとする。 ＜ポートフォリオ評価＞学内評価の 3 分の 1 とする ・ デイリーノート内容 ・ 学校提出課題 ＜学内総合評価＞学内評価の 3 分の 2 とする 社会的技能 意欲など 【その他】 ・ 実習開始前に「臨床見学実習Ⅰ・Ⅱ要項」を必ず熟読すること。 ・ 日頃より敬語や丁寧語を積極的に用いたコミュニケーションを心掛け、他者と良好な人間関係が構築できるように努めること。 ・ 実習 1 週間前には、自ら実習先へ電話連絡を行い、集合時間や場所などの必要事項を確認しておくこと。
------	--

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床評価実習	教員全員	2	3	後期	必修 選択

◇講義概要

臨床評価実習は、理学療法評価を体験する実習である。

◇到達目標

① 理学療法評価（検査測定および情報収集）を模倣することができる。
② 対象者の動作を観察し、問題の仮説をたて立証するプロセスを模倣して、指導者の考えを自らの言葉で述べることができる。
③ 理学療法プロセスについて評価から治療計画立案の過程について、指導者の考えを理解することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
3 週間	理学療法における検査測定および情報収集を体験し、得られた情報をまとめる。また対象者の動作を観察し、問題点について仮説をたて、必要な検査測定項目、情報収集項目をまとめる。可能であればその内容を実施し仮説検証を行う。また、本実習で体験した評価課程が治療計画立案にどのようにつながるかを関係づける。	実習	

評価方法	□定期試験（ %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（実習地評価 70%学内評価 30%）
------	---

教科書	規定しない。
参考図書	規定しない。
留意事項	【評価について】 実習地評価は評価表を元に実習地で行われる。学内評価は下記の通りとする。 <ポートフォリオ評価>学内評価の 3 分の 1 とする ・ デイリーノート内容 <学内総合評価>学内評価の 3 分の 2 とする 社会的技能、意欲など 【その他】 ・ 実習開始前に「臨床見学実習 I 要項」を必ず熟読すること。 ・ 日頃より敬語や丁寧語を用いてコミュニケーションを行い、他者と良好な人間関係を構築できるように努めること。 ・ 実習 1 週間前には直接電話にて連絡し、集合時間や場所などの打ち合わせをしておくこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床総合実習 I	田守康彦（他・複数教員）	3	8	前期	必修 選択

◇講義概要

臨床総合実習 I は臨床参加型実習を核として基本的理学療法を体験し、理学療法士の役割と責任を理解する実習である。
また、理学療法プロセスを理解し、理学療法評価、治療を助言・指導のもと実践する実習である。

◇到達目標

理学療法士の役割と責任を理解する。実習施設において経験できる基本的理学療法を、ある程度の助言・指導のもとに遂行できる。

<修了基準>

- ①対象者を尊重し共感的態度をもって、より良い人間関係を構築するための態度、言動、考えを身に着けることができる。
- ②職場における理学療法士の役割と責任について理解する。また、自身がその一員であると自覚し、行動することができる。
- ③学内で履修した基本的理学療法（水準Ⅰ）を共同参加、あるいは監視下で実施することができる。
- ④③のうち理学療法プロセスについては直接的・間接的情報から統合解釈しゴール設定、治療プログラム立案、再評価のプロセスを理解し、指導者あるいはチームの考えを表出できる。

◇授業計画

期 間	内 容	講義形態	備考
8 週間	<臨床総合実習 I > 1. 理学療法評価（直接的・間接的情報収集）を共同参加あるいは監視下で実施する。 2. 対象者の問題点の抽出を共同参加あるいは監視下で実施する。 3. 対象者の治療目標の設定を共同参加あるいは監視下で実施する。 4. 対象者の治療プログラムの立案を共同参加あるいは監視下で実施する。 5. 理学療法の実践は出来る限り多様な対象者の基本的理学療法について共同参加あるいは監視下で実施する。 6. 理学療法の水準Ⅱについては共同参加、水準Ⅲについては見学する。	実習	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（臨床実習指導者作成の臨床実習評価表、およびポートフォリオ（デイリーノートなど）を元に学科内で点数化を行う。割合は臨床実習指導者 70%・担当教員 30%）
------	---

教科書	規定しない
参考図書	規定しない
留意事項	・実習参加要件 客観的臨床能力試験（OSCE）のすべての項目において合格（得点率 60%以上）することが必要。不合格の場合再試験を実施する。 ・実習単位・時間 8 単位・320 時間以上実習時間外を含め 360 時間以内（1 単位 40 時間以上 45 時間以内）

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

ただし実習開始前、終了後に客観的臨床能力試験（OSCE）を合計 4 時間実習時間外の時間を用いて実施する。

※本実習は定めた実習期間内であっても規定時間を超えた時点で終了する。

・評価

実習地評価は評価表を元に実習地で行われる。学内評価は下記の通りとする。

＜ポートフォリオ評価＞学内評価の 3 分の 1 とする

 デイリーノート内容

＜学内総合評価＞学内評価の 3 分の 2 とする

・単位認定について

単位認定は、臨床実習指導者の評価、ポートフォリオ（デイリーノートなど）を元に点数化し、学内会議および単位認定会議を経て行う。

- ・実習開始前に「臨床総合実習要項」を熟読すること。
- ・毎日各検査および治療実技等の練習をしておくこと。
- ・実習 1 週間前には直接電話連絡し、集合時間などの打ち合わせをしておくこと。

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床総合実習Ⅱ	田守康彦（他・複数教員）	3	8	後期	必修 選択

◇講義概要

臨床総合実習Ⅱは臨床参加型実習を核として基本的理学療法を体験し、理学療法士の役割と責任を理解する実習である。

また、理学療法プロセスを理解し、理学療法評価、治療を助言・指導のもと実践する実習である。

◇到達目標

理学療法士の役割と責任を理解する。実習施設において経験できる基本的理学療法を、ある程度の助言・指導のもとに遂行できる。

＜修了基準＞

- ①対象者を尊重し共感的態度をもって、より良い人間関係を構築するための態度、言動、考えを身に着けることができる。
- ②職場における理学療法士の役割と責任について理解する。また、自身がその一員であると自覚し、行動することができる。
- ③学内で履修した基本的理学療法（水準Ⅰ）を共同参加、あるいは監視下で実施することができる。
- ④③のうち理学療法プロセスについては直接的・間接的情報から統合解釈しゴール設定、治療プログラム立案、再評価のプロセスを理解し、指導者あるいはチームの考えを表出できる。

◇授業計画

期 間	内 容	講義形態	備考
8 週間	＜臨床総合実習Ⅱ＞ 1. 理学療法評価（直接的・間接的情報収集）を共同参加あるいは監視下で実施する。 2. 対象者の問題点の抽出を共同参加あるいは監視下で実施する。 3. 対象者の治療目標の設定を共同参加あるいは監視下で実施する。 4. 対象者の治療プログラムの立案を共同参加あるいは監視下で実施する。 5. 理学療法の実践は出来る限り多様な対象者の基本的理学療法について共同参加あるいは監視下で実施する。 6. 理学療法の水準Ⅱについては共同参加、水準Ⅲについては見学する。 7. 臨床総合実習Ⅰの経験をもとに上記 1～6 についてさらに経験を重ねる。 8. 理学療法プロセスのうち治療プログラム実施後、効果判定のための再評価とその後の過程について共同参加あるいは監視下で実施する。	実習	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（臨床実習指導者作成の臨床実習評価表、およびポートフォリオ（デイリーノートなど）を元に学科内で点数化を行う。割合は臨床実習指導者 70%・担当教員 30%）
------	---

教科書	規定しない
参考図書	規定しない

留意事項	・実習単位・時間 8 単位・320 時間以上実習時間外を含め 360 時間以内（1 単位 40 時間以上 45 時間以内） ただし実習開始前、終了後に客観的臨床能力（OSCE）を合計 4 時間実習時間外の時間を用いて実施する。 ※本実習は定めた実習期間内であっても規定時間を超えた時点で終了する。 ・評価 実習地評価は評価表を元に実習地で行われる。学内評価は下記の通りとする。 ＜ポートフォリオ評価＞学内評価の 3 分の 1 とする デイリーノート内容 ＜学内総合評価＞学内評価の 3 分の 2 とする ・単位認定について 単位認定は、臨床実習指導者の評価、ポートフォリオ（デイリーノートなど）を元に点数化し、学内会議および単位認定会議を経て行う。 ・実習開始前に「臨床総合実習要項」を熟読すること。 ・毎日各検査および治療実技等の練習をしておくこと。 ・実習 1 週間前には直接電話連絡し、集合時間などの打ち合わせをしておくこと。
------	---

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
障害者スポーツ論	中西 信之	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

パラスポーツについて学び、パラスポーツのあり方を理解する。 (認定校に付き必要要件あり)

◇到達目標

医療従事者として障害者スポーツの関わり方を理解できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	パラスポーツに意義と理念・障害者スポーツに関する諸施策	講義	橋本
第 2 回	パラスポーツ大会の概要・日本パラスポーツの資格制度	講義・演習	橋本
第 3 回	コミュニケーションスキルの基礎	講義演習	中西
第 4 回	パラスポーツの理解	講義	中西
第 5 回	各障害のスポーツ指導上の留意点と工夫	演習	中西
第 6 回	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	演習	中西
第 7 回	パラスポーツ推進の取り組み	講義・演習	中西
第 8 回	パラスポーツ実践者との交流 レポート作成	演習	中西

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ そ の 他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	適時印刷配布
留意事項	パラスポーツ初級指導員取得科目（資格は最終学年に卒業見込み者） 学内の授業は講堂にて実施 運動は学校の指定・上靴使用 ※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります 集中講座にて実施予定

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション概論	中西 信之	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

レクリエーションの意義・役割を理解する。

◇到達目標

レクリエーションの概論が理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	レクリエーション概論について	講義・演習	
第 2 回	楽しさと心の元気づくりの理論(集団心理とレク支援)	講義	
第 3 回	レクリエーション支援理論について(集団の特性と支援方法)	講義	
第 4 回	レクリエーション支援の方法 (リーダー研修)	演習	
第 5 回	レクリエーション支援の方法 (リーダー研修)	演習	
第 6 回	現場でのレクリエーション支援	演習	
第 7 回	レクリエーションの支援の方法	講義演習	
第 8 回	レクリエーションの支援の方法	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎
留意事項	学内の授業は講堂にて実施 運動は学校の指定・上靴使用 ※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります 資格取得科目につき現場実習が課せられます レク認定資格授業あり

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション実技Ⅱ	中西 信之	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法を理解する

◇到達目標

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法の理解

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション ファーストインプレッション	講義・演習	
第 2 回	交流分析	講義・演習	
第 3 回	五感トレ	講義・演習	
第 4 回	デュアルタスクと手遊び	講義・演習	
第 5 回	GWT とレク財	講義・演習	
第 6 回	活動分析とアレンジ	講義・演習	
第 7 回	観察法	講義・演習	
第 8 回	ことばで伝えるトレ	講義・演習	
第 9 回	ホスピタリティ対応 1	講義・演習	
第 10 回	ホスピタリティ対応 2	講義・演習	
第 11 回	GWT 1	講義・演習	
第 12 回	GWT 2	講義・演習	
第 13 回	GWT 3	講義・演習	
第 14 回	GWT 4	講義・演習	
第 15 回	ヒーリングレク	講義・演習	

評価方法	□定期試験 (%) □実技試験 (%) ■演習評価 (100%) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	適宜配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがある

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
スポーツ・レクリエーション	中西 信之	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

レクリエーションの基本的な理解を踏まえて、健康寿命の延伸に向けてスポーツ未実施者に向けてからだを動かすことの喜びと健康的な社会生活の構築を図ることのできる指導者養成を目的とする。

◇到達目標

スポーツレクリエーションの考え方を理解し健康生活を図るリーダー育成を習得する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	スポーツレクリエーション概論について	講義演習	
第 2 回	スポーツレクリエーション生理学と参加促進について	講義演習	
第 3 回	スポーツレクリエーション心理学と動機付け技術	講義演習	
第 4 回	スポーツレクリエーション参加促進法	講義演習	
第 5 回	継続のための場づくり	講義演習	
第 6 回	動機付けの支援技術	講義演習	
第 7 回	動機付けの支援技術(レク式体力支援実技)	講義演習	
第 8 回	安全管理と行政のしくみ	講義演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎 スポーツレクリエーション指導者養成テキスト
留意事項	学内の授業は講堂にて実施 運動は学校の指定・上靴使用 ※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります 資格取得科目につき現場実習が課せられます